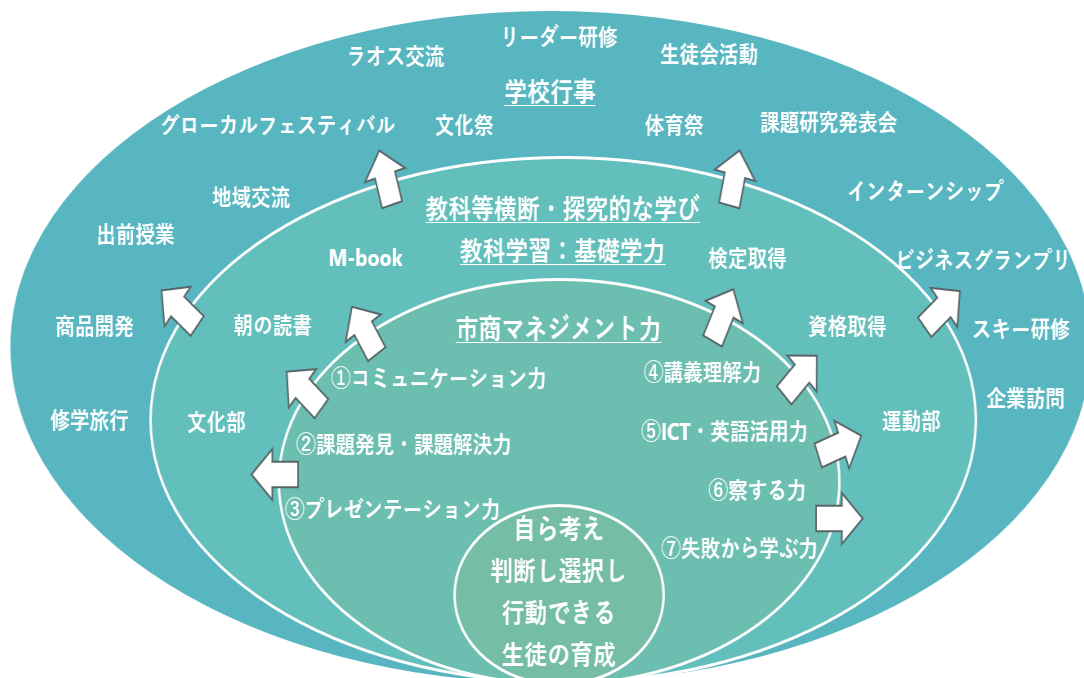


## 令和5年度市商地域創造プログラム

# 事業報告書

（令和5年4月～令和6年3月）



教わるから「自ら学ぶ生徒」へ  
教えるから「支援する教職員」へ

高知商業高等学校



アントレプレナー 生成  
 取り入れる できる  
 いく 送る  
 行かう  
 ict  
 ブルーカラー-ホワイトカラー  
 workspace  
 活用  
 ハイブサイクル  
 企業文化  
 アシレーション  
 小宮山  
 アントレ  
 教育ai  
 目める  
 起業者精神  
 利活用  
 電脳コンステレーション  
 ring  
 アントレプレナーシップ  
 教育支援  
 アントレプレナー教育  
 外れ値  
 pdca  
 ターン  
 問い  
 持ち方  
 chatgpt  
 考える  
 gbt  
 活かす  
 行える  
 chatgpt  
 感じる  
 1%  
 取り組む  
 意思決定  
 立てる



特別活動 部活動 society 本校  
 singularity ict 鈴木先生  
 ルーブリック 鈴木寛 考え抜く 最適化  
 well vuca 生徒 いく 1on1  
 育む レジリエンス 高める gpt 自覚感情 コロナ禍  
 捕われる ウェルビーイング 取り組む  
 sdgs 学習指導要領 協働 aar 1人1人 wellbeing  
 校務 pbl being oecd 転ずる 教員  
 学び 協働 being 探究  
 ウェルビーイング 感じ



## はじめに

手探りでスタートした1年目は、市商地域創造プログラムを通して生徒たちが Society5.0 に求められる「失敗から学ぶ力」を中心とする「市商マネジメント力」を自ら獲得することを目的とした PBL 学習に取り組みました。

新たな教育実践への思いが強く、これまで利用したことない ICT スキルの習得・活用に取り組むべく、プロジェクションマッピングを使った情報発信を行うことができました。生徒にとっては、これまで利用したことのないアプリケーションの活用はもちろん、高知市のシンボル「高知城追手門」でのプロジェクションマッピングイベント開催は未知との遭遇の連続でした。リアルな社会と繋がる活動が生徒の主体性を高め、積極性やコミュニケーション力、発想・創造力を発揮する姿に、長くマスク生活を強いられてきた日常では見られなかった生徒の「市商マネジメント力」の伸長を実感しました。

一方で、与えられたテーマではなく課題を自ら発見し、誰が、何のために、どのようにしてといった問いに、それは事実か、なぜ優れているのかといった思考を重ね深めていく過程を整理することや、プログラム開発を学校全体へ波及させるための体制の構築が課題として残されました。

2年目は、統一テーマ「地域を創造する市商」を掲げ取り組みを進めて参りました。4学科（総合マネジメント科、社会マネジメント科、情報マネジメント科、スポーツマネジメント科）において、本事業に取り組む事で、生徒の多様な能力・適性・興味・関心等、個性に応じた実践ができるものと考えスタートしました。具体的には外部知（学校外の専門家）と教職員とが、科目を超えた繋がりを持つことを狙い、各学科の特色ある取り組みに、県内外から外部講師を招聘し、高知県内を学びのフィールドとして授業を実施しました。

本校活動の原動力は、①学校行事（自分たちの学校は自分たちで作る学校自治力：徳）②部活動（部活動での頑張りは学校に活力を与えてくれ一体感を育む：体）③授業改革（主体的学習者と教師支援で作る授業：知）であります。

この原動力を拡がり繋がった平らかな面のように捉え「自ら考え判断し選択し行動できる力」と「市商マネジメント力7つの力」を全ての教育活動を通して育成することで、新たな創造的教育方法が導き出せるものと考えました。

結びに本報告書をご覧いただいた皆様からは、忌憚のないご意見・ご助言・ご指導をいただくことで、令和6年度以降の活動をさらに発展・充実させていきたいと考えていることをお伝えして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

令和6年3月吉日

高知商業高等学校長 竹村 晃

## I 市商地域創造プログラム事業概要

- 1 市商地域創造プログラムとは？…………… 1
- 2 学習プログラム …………… 2
- 3 研修プログラム …………… 4
- 4 達成目標 …………… 4

## II 事業実施・評価の体制

- 1 事業実施体制 …………… 5
- 2 事業評価体制 …………… 7

## III 事業実施状況報告

- 1 学習プログラム
  - (1) 総合マネジメント科ライセンスコース2年生…………… 9
  - (2) 社会マネジメント科地域実践コース2年生…………… 20
  - (3) 情報マネジメント科3年生・情報マネジメント科ICT活用類型2年生 …… 39
  - (4) スポーツマネジメント科1・2・3年生…………… 49
- 2 研修プログラム
  - (1) 高等学校改革に係る教職員研修…………… 56
  - (2) 自己課題研修…………… 60
- 3 外部機関等との連携
  - (1) 福岡県立糸島高等学校への視察…………… 61
  - (2) 佐賀県立伊万里実業高等学校との協議…………… 62
- 4 成果発表・成果普及
  - (1) 課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会…………… 63
  - (2) 公開授業 …………… 65
- 5 成果検証
  - (1) アンケート調査…………… 66
  - (2) 運営指導委員会の協議まとめ…………… 67
  - (3) 高校魅力化評価システムデータ…………… 70

## IV 補足資料

- 市商地域創造プログラム通信…………… 74
- 成果概要図 …………… 78

# I

---

## 市商地域創造プログラム事業概要

## I 市商地域創造プログラム事業概要

### I 市商地域創造プログラムとは？

本プログラムは文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」として、令和4年度に採択された3年間の事業です。

高知商業高等学校は、高知市教育委員会が設置する唯一の高等学校として「高知や社会に貢献し 進学にも就職にも強い 元気のある 選ばれる商業高校」を実現するために、生徒一人一人が「市商マネジメント力」を身に付けることを目標としています。

本校が取り組むのは、遠隔・オンライン教育（質の高い通信教育を含む）を活用し、新しい教育手法により、教科等横断的な学びを実施するカリキュラム開発のうち、ア) Society5.0 の実現に向けて、イノベーションや新たな価値創造をもたらす人材を育成すること等を目的として、AI や IoT 等の最先端の技術を活用し教科等横断的な学びを実践するカリキュラムです。

### ※ 文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を実現するため、令和4年度から設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。（ウェブサイトより引用）

#### 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）



##### 背景・課題

- 高等学校には多様な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育段階において育成された資質・能力を更に発展させながら、**生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要**。
- 令和3年1月の中央教育審議会答申等においては、**高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための教育**が必要とされた。また、AIやIoT等の急速な技術の進展により社会が激しく変化している今日においては、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、**課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている**とされた。

##### 事業内容：新しい教育方法を活用した教科等横断的な学びの取組に係る調査研究

##### ①教科等横断的な学びを実施するカリキュラムの開発

⇒遠隔・オンライン教育（質の高い通信教育を含む）を活用し、**新しい教育手法により、教科等横断的な学びを実施するカリキュラム開発を行うこと**。カリキュラム開発のテーマは、以下のア又はイとすること。

ア) Society5.0の実現に向けて、イノベーションや新たな価値創造をもたらす人材を育成すること等を目的とし、AIやIoT等の最先端の技術を活用し教科等横断的な学びを実施するカリキュラム

イ) 特性等に応じて自分のペースで学習を行う生徒等に対して、実社会での問題発見・解決力を育成することを目的として、自己の将来とのつながりを意識した教科等横断的な学びを実践するカリキュラム  
※いずれの場合も、そのカリキュラムが**全国的に見て先進的であり、他の高等学校における高校改革のモデルとなるもの**であること。

##### ②関係機関等との連携協力体制の構築

⇒**最先端の技術を活用した学びや自らの興味関心に応じた探究的な学びを実践**するために、コンソーシアムを置く等、**関係機関等との連携協力体制を構築**すること。

## 2 学習プログラム

本プログラムでは、生徒の興味関心から設定するテーマを引き出し、専門性を持った外部講師等と連携し、各科コースの特色あるカリキュラムに沿って実施していきます。これらの学習プログラムの実施には、高知県内を学びのフィールドとして活用します。外部講師と連携するコーディネーター（プレイヤー）の役割は、各科コース長等の教職員が担います。コーディネーター（マネージャー）の業務は、高知大学次世代地域創造センターに依頼しています。また、授業の相互参観、公開授業（年間70回）の実施等を積極的に進め、継続的に質の向上を目指します。その他、年1回の課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会を開催し、連携協力をいただいた企業・外部講師に取り組みを報告し、教育機関等と情報交換を図る等、情報発信を行います。

### ※ 文部科学省 コーディネーター業務の概要



	学科コース	対象学年	人数	内容
(1)	総合マネジメント科 ライセンスコース	2年	102名	アントレプレナーシップで高知県の未来を創造する
(2)	社会マネジメント科 地域実践コース	2年	35名	「世界とつながる地方創生」に貢献できる人材になる
(3)	情報マネジメント科 ICT活用類型	2年	17名	「デジタル技術」を活用して高知に貢献できる人材育成
	情報マネジメント科	3年	34名	
(4)	スポーツマネジメント科	1年 2年 3年	103名	スポーツで「健幸」な地域づくり

市商地域創造プログラム実践から見えてきたこと

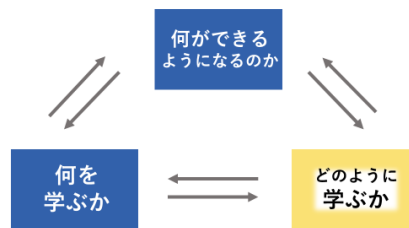
市商地域創造プログラム実践から見えてきたこと

Society5.0の実現に向けて

<b>WHY</b>	イノベーションや新たな価値創造をもたらす人材を育成するために
<b>HOW</b>	遠隔・オンライン教育を活用し新しい教育手法により
<b>WHAT</b>	教科等横断的な学びを実施する ・カリキュラム開発 ・関係機関との連携・協体制の構築

(産研も含めて) 研究する事業

### 学習指導要領

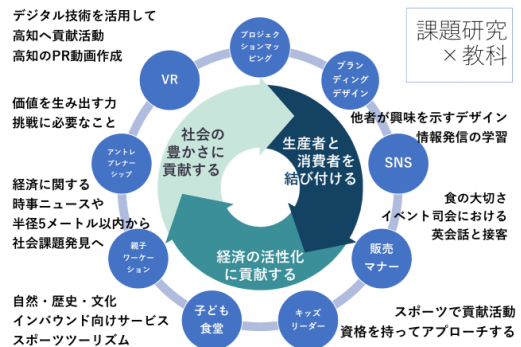


教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

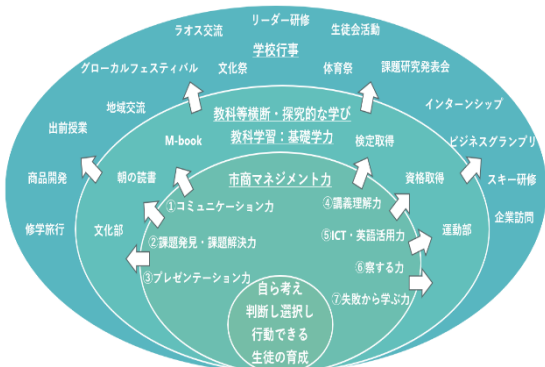
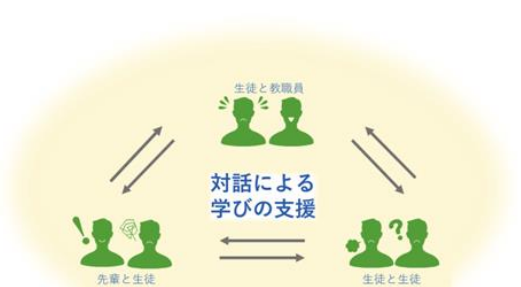
- 児童生徒や学校地域の実態を把握し、教育の目標を明確化し教科横断的な資質能力の育成、教科の枠を超えた横断的総合的な教育の推進⇒教科等間のつながりを意識した教育課程を編成実施



学習の基盤となる資質能力



## 地域を創造する市商



教わるから「自ら学ぶ生徒」へ

教えるから「支援する教職員」へ



### 3 研修プログラム

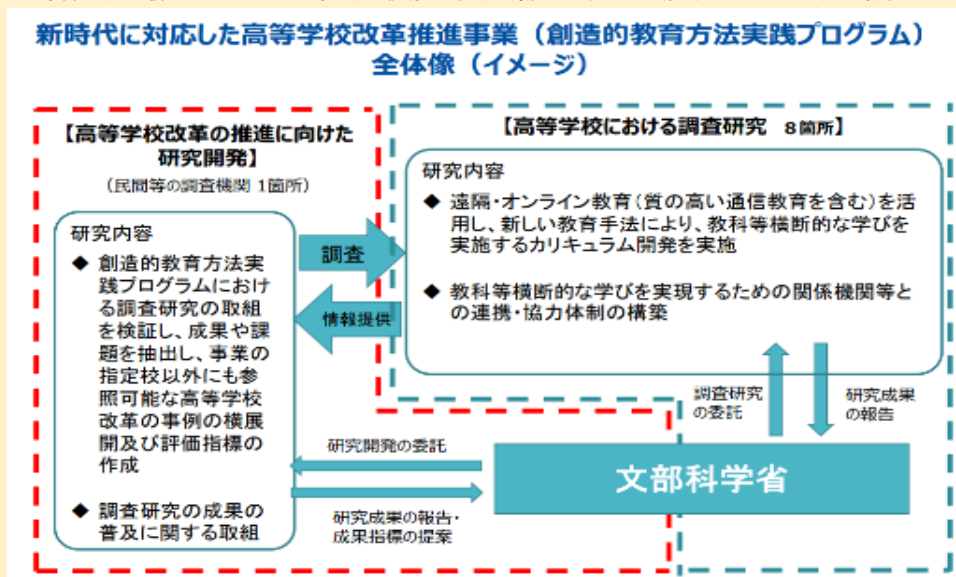
本プログラムでは、生徒だけではなく、全ての教職員が学びを継続しています。本プログラムを効果的に推進していくために高知大学次世代地域創造センターの協力を得て、校内教職員が年間授業計画の構成などを相談できるようカリキュラム開発学習会を実施します。また、校内で実施する悉皆研修のほか、各自の研究テーマや専門性に基づいて、全ての教職員がオンライン研修を含めた自己課題研修を実施します。

		参加形態	人数	実施内容等
(1)	高等学校改革に係る研修 全日I	悉皆集合	63名	講義：「一人ひとりとの対話が個人と社会のwell-beingを高める」 講師：東京大学 鈴木 寛 教授
	高等学校改革に係る研修 全日IV	悉皆集合	63名	講義：「海外の教育事情 アントレプレナーシップの実践」 講師：東京学芸大学大学院 小宮山 利恵子 准教授
(2)	自己課題研修	悉皆集合又はオンライン・オンデマンド	63名	研修期間は4月から2月までの期間のうち3日間とする。参加又は実施する研修は原則課業日内とし、主に夏季休業中等に参加又は実施する。
(3)	カリキュラム開発学習会	希望集合	—	高知大学次世代地域創造センターと連携し効果的に推進していく。

### 4 達成目標

授業での学びを部活動・生徒会活動・学校行事において発揮し、挑戦と発見を繰り返す、3年間にわたり継続的に学ぶことで、市商マネジメント力を身に付けた生徒が、高知や社会に貢献する人材となることを目指します。具体的には、就職希望者のうち、高知県内に就職する生徒が増加すること、進学希望者のうち国公立大学や有名私立大学など高い目標に向けて挑戦する生徒が増加すること、教職員研修受講者のうち教科等横断的な学びを実践する教職員が増加することを達成目標とします。

#### ※ 文部科学省 新時代に対応した高等学校推進事業（創造的教育方法実践プログラム）全体像（イメージ）



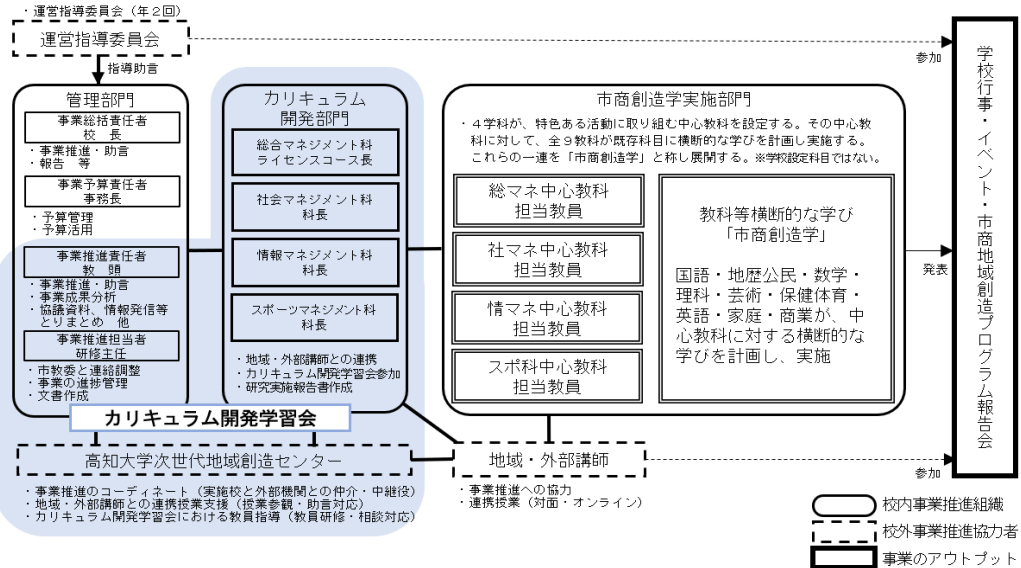
# II

---

事業実施・評価の体制

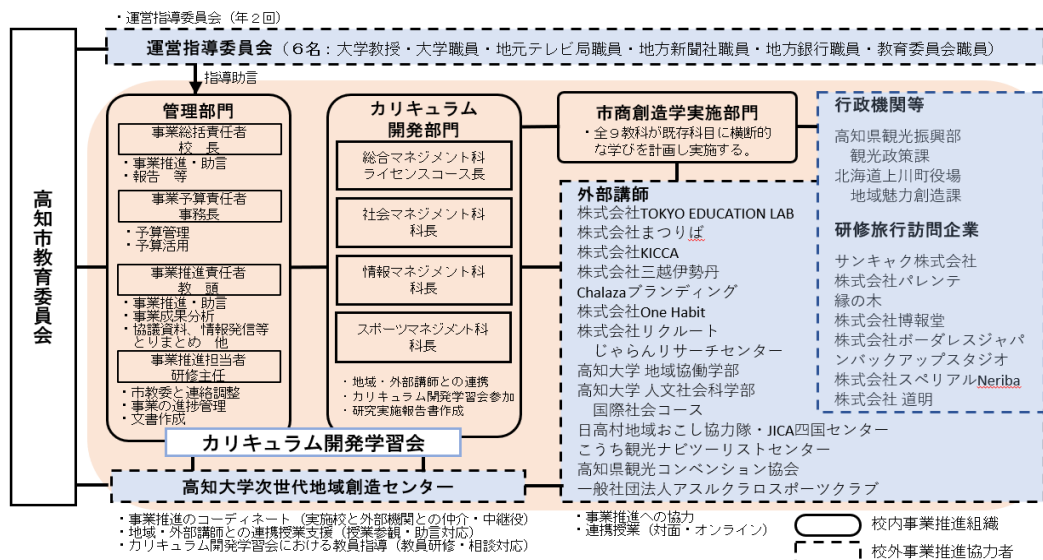
## II 事業実施・評価の体制

### I 事業実施体制



校内において、学校長をリーダーとした実施体制を構築しています。事業総括責任者、事業予算責任者、事業推進責任者、事業推進担当者からなる管理部門は、週1回開催する研修主任・主幹教諭・管理職・市教委合同定例会にて、進捗状況の情報共有を図ります。事業推進責任者、事業推進担当者、カリキュラム開発部門の各科コース長は、必要に応じてカリキュラム開発学習会を開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認などを行います。カリキュラム開発部門の各科コース長は、市商創造学実施部門の教科担当教員と外部講師と連携した授業を実施します。事業の円滑な実施のために、高知大学次世代地域創造センターの協力を得て、年間計画の策定の相談等、専門的見地から助言を受ける機会を設けています。

### 【関係機関との連携・協力体制】



## (1) カリキュラム開発部門打合せ会（場所：校内）

	日時	内容	参加人数
1	令和5年4月13日（木） 15：30～16：00	令和5年度の取組に関する内容確認	7名（開発部門5名・教頭・研修主任）
2	令和5年6月13日（火） 16：00～16：30	教科等横断的な取扱内容について共有	7名（開発部門5名・教頭・研修主任）
3	令和5年10月18日（水） 17：00～17：30	R5事業予算に係る中間確認	10名（開発部門8名・教頭・研修主任）
4	令和5年12月13日（水） 16：00～17：00	R6事業予算に係る事前連絡	10名（開発部門8名・教頭・研修主任）
5	令和6年1月5日（金） 11：00～11：30	R6事業予算に係る校内調整	7名（開発部門5名・教頭・研修主任）
6	令和6年2月21日（水） 15：00～15：30	R5運営指導委員会協議内容の共有	9名（開発部門7名・教頭・研修主任）

## (2) カリキュラム開発部門学習会（場所：高知大学次世代地域創造センター，本校）

	日時	内容	参加人数
1	令和5年6月7日（水） 14：00～16：00	情報マネジメント科 カリキュラム開発相談会	4名（高知大学森先生・開発部門3名）
2	令和5年7月27日（木） 13：30～16：00	ライセンスコース カリキュラム開発相談会	5名（高知大学川村先生・森先生・開発部門1名・教頭・研修主任）
3	令和5年8月17日（木） 13：30～16：00	スポーツマネジメント科 カリキュラム開発相談会	6名（高知大学川村先生・森先生・開発部門2名・教頭・研修主任）
4	令和5年8月31日（木） 13：30～16：00	社会マネジメント科 カリキュラム開発相談会	6名（高知大学川村先生・森先生・開発部門2名・教頭・研修主任）
5	令和5年9月19日（火） 9：00～11：00	情報マネジメント科 VR ゴーグルの活用	4名（高知大学森先生・開発部門1名・生徒2名）
6	令和5年9月29日（金） 16：30～18：00	市商祭前日準備におけるVRゴーグルの操作トラブルの改善	3名（高知大学森先生・開発部門1名・生徒1名）
7	令和5年9月30日（土） 13：30～15：00	市商祭運営当日におけるVRゴーグルを活用したイベントの支援	4名（高知大学森先生・開発部門1名・生徒2名）
8	令和5年10月3日（火） 9：00～10：00	借用していたVRゴーグルの返却及び振り返り	3名（高知大学森先生・開発部門1名・生徒1名）
9	令和5年12月12日（火） 10：00～11：00	R5事業報告及びR6事業計画の相談	3名（高知大学川村先生・森先生・研修主任）
10	令和5年12月21日（木） 10：00～12：00	R5事業報告及びR6事業計画の相談	3名（高知大学川村先生・森先生・研修主任）
11	令和6年1月11日（木） 10：00～12：00	R6事業計画及び研修計画（案）作成	3名（高知大学川村先生・森先生・研修主任）
12	令和6年1月15日（月） 9：30～13：00	R5事業報告資料作成に係る指導助言	2名（高知大学森先生・研修主任）
13	令和6年1月16日（火） 9：30～15：00	R5事業報告資料作成に係る指導助言	2名（高知大学森先生・研修主任）
14	令和6年1月18日（木） 9：30～15：00	R5事業報告資料作成に係る指導助言	2名（高知大学森先生・研修主任）

## 2 事業評価体制

内部評価としては、毎年度、校内において振り返りやアンケート調査等を実施し、商マネジメント力の伸長を見取り、アンケート内容等をもとに自己評価を行い、改善点を事業計画に反映させます。

外部評価としては、年1回、運営指導委員、行政関係者、教育機関、外部講師、生徒の学びを支援して下さっている企業、保護者等を招き、生徒発表会及び管理職による事業報告会を開催し、本校の取り組みについて理解を促すとともに、外部の来場者にもアンケート調査を実施します。これらの報告を踏まえ、本校の取り組みについて、年2回運営指導委員会の評価を受けるものとします。

### (I) 第1回運営指導委員会

日 時：令和5年7月3日（月）16：00～17：30

開催場所：高知商業高等学校

参加者：委員6名、校内15名、教育委員会1名、企業1名（計23名）

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

第1回運営指導委員会 参加者名簿

No.	所属	職名	氏 名	備考
1	高知大学 高知大学次世代地域創造センター	特任教授・学長特別補佐 地域DX共創部門 部門長	川 村 晶 子	運営指導委員
2	高知大学次世代地域創造センター	地域DX共創部門	森 和 美	運営指導委員
3	株式会社高知放送	報道制作局次長	中 嶋 淳 介	運営指導委員
4	株式会社高知新聞社	編集局 紙面審査委員	鍋 島 和 彦	運営指導委員
5	四国銀行	地域振興部 上席調査役	佐 久 間 雄 一 郎	運営指導委員
6	高知市教育委員会GIGAスクール推進プロジェクトチーム	情報教育学校支援アドバイザー	岡 崎 伸 二	運営指導委員
7	高知商業高校	学校長	竹 村 晃	
8		教頭	成 瀬 孝 治	
9		教頭	安 岡 孝 浩	
10		主幹教諭	掛 水 さ お り	
11		教諭	山 岡 純 平	
12		教諭	小 田 悟 司	
13		教諭	山 本 昭 二	
14		教諭	松 木 航	
15		教諭	藤 田 大 悟	
16		教諭	土 居 生 命	
17		教諭	楠 瀬 教 仁	
18		教諭	片 山 杏 美	
19		教諭	三 嶋 香 世	
20		事務長	葛 目 京 子	
21		管理主幹管理担当係長事務取扱	朝 倉 壽 信	
22	高知市教育委員会学校教育課 高等学校企画政策室	指導主事	久 保 智 司	
23	四国銀行	地域振興部 主任	山 本 紫 乃	



▲ 第1回運営指導委員会参加者

(2) 第2回運営指導委員会

日 時：令和6年2月13日（火）16：00～17：30

開催場所：高知県立県民文化ホール 第10多目的室

開催方法：ハイブリッド開催（集合・Zoom）

参加者：委員6名，校内7名，教育委員会1名（計14名）

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）

第2回運営指導委員会 参加者名簿

No.	所属	職名	氏 名	備考
1	高知大学 高知大学次世代地域創造センター	特任教授・学長特別補佐 地域DX共創部門 部門長	川 村 晶 子	運営指導委員
2	高知大学次世代地域創造センター	地域DX共創部門	森 和 美	運営指導委員
3	株式会社高知放送	報道制作局次長	中 嶋 淳 介	運営指導委員
4	株式会社高知新聞社	編集局 紙面審査委員	鍋 島 和 彦	運営指導委員
5	(株) FDIco 運用部	シニア・インベストメント・マネージャー	佐久間雄一郎	運営指導委員
6	高知市教育委員会GIGAスクール推進プロジェクトチーム	情報教育学校支援アドバイザー	岡 崎 伸 二	運営指導委員
7	高知商業高校	学校長	竹 村 晃	
8		教頭	成 瀬 孝 治	
9		教頭	安 岡 孝 浩	
10		主幹教諭	掛 水 さ お り	
11		教諭	三 嶋 香 世	
12		事務長	葛 目 京 子	
13		管理主幹管理担当係長事務取扱	朝 倉 壽 信	
14	高知市教育委員会学校教育課 高等学校企画政策室	指導主事	久 保 智 司	

# III

---

## 事業実施状況報告

### Ⅲ 事業実施状況報告

#### Ⅰ 学習プログラム

##### (Ⅰ) 総合マネジメント科ライセンスコース2年生

###### 1) 活動主体

高知商業高等学校 総合マネジメント科ライセンスコース2年生 102名

###### 2) 実施授業

課題研究

###### 3) 授業の目的・ねらい

###### ○ 目的

アントレプレナーシップ教育を通して、自ら社会課題を見つけ、他者と協働し、ビジネスの観点から解決策を考えることによって、様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出す力の育成を目指す。

###### ○ ねらい

ア 社会や身の回りの課題から事業機会を発見し、ビジネスプランを構築する。

イ 企業訪問や企業研究を通して、ビジネスの知識を身に付ける。

ウ 起業訪問などを通して、社会と繋がる機会を作る。

エ 授業や活動の経験から自らの進路実現や将来の方向性について考える。

##### 4) 外部講師（敬称略）

講師氏名(所属)	主な講義内容
金井 隆行 (株式会社 TOKYO EDUCATION LAB)	修学旅行コーディネート スクールラボファシリテーター
中谷 百香理 (株式会社 TOKYO EDUCATION LAB)	修学旅行コーディネート スクールラボファシリテーター
森 真悠子 (株式会社まつりば)	Startup Base 教材提供 授業コーディネート
三谷 航平 (北海道上川町役場 地域魅力創造課)	修学旅行における企業訪問 事業説明
竹内 竜太 (サンキャク株式会社)	修学旅行における企業訪問 事業説明
田村 慎吾 (株式会社パレンテ)	修学旅行における企業訪問 事業説明
本橋 彩 (株式会社博報堂)	修学旅行における企業訪問 事業説明
白羽 玲子 (縁の木)	修学旅行における企業訪問 事業説明



講師氏名(所属)	主な講義内容
道明 葵一郎 (株式会社 道明)	修学旅行における企業訪問 事業説明
富田 淳 (株式会社スペリアル Neriba)	修学旅行における企業訪問 事業説明
南園 彩花 (株式会社ボーダレスジャパンバックアップスタジオ)	修学旅行における企業訪問 事業説明

5) 科目横断的な授業

科目名	授業内容
グローバル経済	経済に関する時事ニュースを取り扱い，社会課題の発見に繋げる

6) 実施実績

令和5年

月日(曜日)	授業・会議	内容
4月10日(月)	ZOOM 会議	まつりば森氏と動画教材 Startup Base の導入について打合せ
4月17日(月)	授業	授業オリエンテーション ファシリテーションに関する講義
4月20日(木)	ZOOM 会議	まつりば森氏と動画教材 Startup Base の進め方について詳細な打合せ
4月24日(月)	授業	ファシリテーションに関する講義と演習
4月25日(火)	ZOOM 会議	TOKYO EDUCATION LAB (以下 TEL) 金井氏，中谷氏とのスクールラボに向けた打合せ
4月27日(木)	対面会議	TEL 中谷氏とスクールラボ実施に向けた直前打合せ
4月28日(金)	授業	1限～4限目(9時～12時50分 鵬程会館) 生徒102名が参加し，TEL 金井氏，中谷氏による講義演習「スクールラボ」の実施
5月8日(月)	授業	Startup Base01 Introduction プログラム概要 Startup 企業の説明に関する講義・演習
5月15日(月)	授業	Startup Base02 The value 消費者は何にお金を払っているのかについて，商品やサービスの価値を3分類に分けて考える講義 100円のコーラを1000円で販売する方法を考える演習の実施

月日(曜日)	授業・会議	内容
6月5日(月)	授業	Startup Base03 How to make good idea 世の中のヒット消費はどのように生み出されたのかについて理解する講義 「誰が・どんな状況, 立場で・困りごと」についてインタビューする課題を提示
6月8日(木)	ZOOM 会議	TEL 金井氏, 中谷氏と修学旅行の方向性に向けた打合せ
6月12日(月)	授業	Startup Base04 アイデアピッチ大会① アイデアピッチ大会に向けた準備
6月19日(月)	授業	Startup Base04 アイデアピッチ大会② 39秒間で「タイトル」「なぜやるのか」「なにをやるのか」について, アイデアを全員でプレゼンの実施
6月26日(月)	ZOOM 会議	まつりば森氏と授業の進捗状況の確認
	授業	Startup Base05 Team Building① アイデアピッチ大会を踏まえて, 上位8チームを投票により決定⇒共同創業者を決定
7月10日(月)	授業	Startup Base05 Team Building② チーム代表者, 役割分担の決定
7月27日(木)	会議	高知大学川村先生, 森先生 授業の経過報告と今後の計画についての相談
7月31日(月)	会議	TEL 金井氏, 中谷氏と修学旅行の内容についての打合せ
8月8日(火)	会議	まつりば森氏と授業の進捗状況について確認
9月4日(月)	授業	ビジネスの対象課題の再検討 課題 Check シートを作成 設定している課題が本当に社会にニーズのある課題なのか再考
9月11日(月)	授業	Startup Base06 Prototyping ideas① 再考した課題から, ビジネスのアイデア検討 以下の3つを長期的な課題として取組 ○ 事業内容再ブレスト ○ アイデアシートの作成 ○ プロトタイプの作成
9月25日(月)	授業	Startup Base06 Prototyping ideas② 各チームで作成への取組
10月3日(火)	会議	TEL 金井氏, 中谷氏と修学旅行の内容打合せ

月日(曜日)	授業・会議	内容
10月16日(月)	授業	Startup Base06 Prototyping ideas③ 各チームで作成への取組
10月30日(月)	授業	行程などについて、修学旅行説明会の実施
11月1日(水)	授業	修学旅行事前学習会 TEL 金井氏, 中谷氏来校, 事前学習会を実施 目的を確認, 訪問企業, 訪問場所を決定
11月6日(月)	授業	修学旅行訪問企業についての調べ学習
11月13日(月)	授業	修学旅行訪問企業についての調べ学習
11月14日(火) ~17日(金)	修学旅行	3クラス18チームに分かれ, 都内研修, 企業 研修, プレゼンテーション大会の実施
11月20日(月)	授業	修学旅行の振り返り
11月27日(月)	授業	Startup Base06 Prototyping ideas④ 各チームで作成への取組
12月11日(月)	授業	Startup Base06 Prototyping ideas⑤ 各チームで作成への取組

令和6年

月日(曜日)	授業・会議	内容
1月11日(木)	ZOOM 会議	TEL 金井氏, 中谷氏と今後の計画の打合せ 2月5日来校時の講義内容 3月12日のプレゼン大会について確認
1月15日(月)	ZOOM 会議	まつりば森氏と今後の計画の打合せ 2月5日来校時の講義内容 3月12日のプレゼン大会について確認
	授業	Startup Base06 Prototyping ideas⑤ 各チームで作成への取組
1月22日(月)	授業	Startup Base07 Customer development① プロトタイプを最初の顧客に利用してもらう ために, どのような訴求をするのかについて 動画教材で学習 プロトタイプ作りも並行して進めた
1月29日(月)	授業	Startup Base07 Customer development②

月日(曜日)	授業・会議	内容
2月5日(月)	授業	5・6限目(13:35~15:35) TEL 金井氏, 中谷氏, まつりば 森氏 3名来校し, 3クラスで生徒のビジネスプランに対するフィードバックと, ブラッシュアップの実施
2月14日(水) ~16日(金)	授業	ビジネスプラン一次審査の実施 各クラスで上位3組を決定する審査会の実施
3月12日(火)	授業	ビジネスプラン最終審査 (10:30~12:30 第一体育館) 各クラス代表3組×3クラス, 合計9組出場 ゲスト審査員を迎え, 最終審査会を実施 グランプリ, 準グランプリを決定

#### 7) 生徒の感想等

- ・ 自分にとってもレベルアップができる授業で今後にもつながっていくと思うので学んで良かったと思う。
- ・ 今までやってこなかった自分たちで会社を作るのをやってすごく楽しい。
- ・ ビジネスを自分で考えることは簡単ではないことだと思った。
- ・ 身近な悩みからアイデアを生み出すことができることを知れた。このことから、自分が起業するときには周りの人に悩みを聞いて商品を開発したいと思った。
- ・ このようなことを知れて良かったと感じています。また、この年で企業のことを知れて知識が広がったし、父との話も盛り上がったので、嬉しいです。将来完璧なアイデアを考えた時起業しようと思います。
- ・ 自分達で事業を考えてそれを組み立てていくというのがすごく将来的にも生かされていくものだし、自分は失敗から学ぶ力がすごく伸びたなと感じました。
- ・ 自分も社長を目指しているが、イメージが全く湧いてこなかったが、課題研究の授業で起業家精神、社長のあり方などを学ぶことができ、明確なイメージが湧いてきた。
- ・ この課題研究の授業を通して、自分には社会の問題について考える事ができていなかったけど、どんなビジネスをするかをチームで考える時に最初は自分たちが困っていることだったけど、それじゃ利益を得ることが出来ないから今の日本の問題に目を向けて考える事ができるようになりました。どんなビジネスをするかが決まってからも、アプリにするのか物でやるのかを考えるのも難しかったです。
- ・ 課題研究を通して1番は課題発見・解決力が身に付いたと思います。ビジネスアイデアを考える時も今日本ではどんなことが社会問題や課題になっているかをグローバル経済などで学んだことも思いだしつつ、自分たちの身の回りの悩みな

どを関連させながら課題を発見していき、高校生の私たちが少しでもビジネスになるように解決策を考えたことが1番身に付いた理由だと思いました。

#### 8) 授業担当者感想等

初めてアントレプレナーシップ教育を導入し、試行錯誤しながら取り組んだが、1年目には課題が多く残った。課題としては生徒の視野を拡げることの必要性を特に強く感じた。ビジネスそのものへの理解が不十分であることから、ビジネスプランの構築だけでなく、企業研究などを通じて社会や企業経営について理解し、知識を定着させる必要がある。

4月に行われた「スクールラボ」では、株式会社 TOKYO EDUCATION LAB の金井氏と中谷氏に講義や演習を行ってもらった。アントレプレナーシップ教育の一環として、「学校づくり」をテーマに起業について考え、課題発見や解決力、創造力を身につけさせることを目的に実施した。3つのクラスが混在したチームで、理想の学校づくりに向けてアイデアを出し合い、共同で取り組むことができた。起業の考え方を実践的に学ぶことだけでなく、学校という身近なテーマであることで、生徒たちが起業を身近な存在と感じられたことを実感した。

5月からは株式会社まつりばの「Startup BaseUI8」というアントレプレナーシップ育成プログラムに取り組んできた。「GoPro」や「メルカリ」など、身近な企業を題材にしてリスタートアップについて学ぶことができ、ビジネスアイデアの考え方を身近に感じることができた。インタビュー活動を通じて身近な「困りごと」を見つけ出し、そこからビジネスのアイデアを生み出すプロセスでは、39秒間のアイデアピッチを行い、生徒たちも周りに多くの事業機会が存在することを実感することができた。しかし、ビジネスモデルの構築に向けて話し合いを進めていくと、ビジネスとして成立できないアイデアが数多く生まれることになった。アイデア自体は面白いものから、独創的なものまであるものの、大手競争企業の存在を知らなかったことや、収益構造の作成が不十分なこと、自社と顧客、または取引先との関係性の理解が不十分であるチームが数多く表れた。顧客目線でのその原因は生徒のビジネスに対する知識の浅さと、「本当にビジネスになるのか？」という自分たちのアイデアを顧客目線で考えることができなかったことが挙げられる。そこで、再度課題から見直し、本当に世の中で解決を期待されている課題であるのか、その課題を解決することがビジネスに繋がるのかということ改めて考えさせた。チームでの協議や、情報収集を進めた結果、少しずつビジネスとしての実現可能性や、社会的ニーズの存在を意識しながら考えたビジネスプランを作り上げることができた。

11月には東京都への修学旅行で企業訪問を行った。「iU 情報経営イノベーション専門職大学」への訪問では、専任教員兼学部長補佐の川上慎市郎氏によるアイデア思考に関する講義を受講し、ブレインストーミングを通して、自由な発想力を高めることができた。都内研修では「高知県と東京都の違い」をテーマに各班で調査活動を行った。そして、企業研修では13社を訪問し、活躍する大人たちから、ビジネスを続けるやりがいや、難しさ、生きていく術を学ぶことができた。

生徒たちの感想からも分かるように、充実した時間を送ることができている。

修学旅行後は、ビジネスアイデアのプロトタイピングを中心に授業を進めてきた。主にプロトタイプアプリ「Prott」や、ホームページ作成サイト「ペライチ」などを利用している。アイデアを具体化していくと欠点にも気づき、自然と作成しながら改善をしていくリーンスタートアップの流れを体感することができていた。作成したプロトタイプは身近な人に利用してもらい、フィードバックをもらうことで、さらなる改善を図ることができている。

2月5日には、金井氏、中谷氏、森氏の3名に来校していただき、現在のビジネスプランのブラッシュアップを行ってもらった。各班がプレゼンテーションを行い、そのプレゼンテーションに対して質問を投げかけ、さらに困っていることの相談や、改善の提案など、対話を通じてビジネスのブラッシュアップを行うことができた。自分たちのプランには何が足りないのかを明確にすることができ、より向上心を持って改善に取り組めた。

2月14日からは生徒たちのビジネスアイデアのプレゼンテーションを行った。改良を重ねた成果も表れており、具体的なビジネスモデルを提示したプレゼンができていた。しかし、全体的にプレゼンテーションとしては完成度が高かったものの、根拠や他者からの評価など、社会的に実践できる段階ではないものばかりだった。

このことから来年度は課題設定、ビジネスアイデアの発想力だけではなく、インタビューや他者からのフィードバックを多く取り入れることのできるカリキュラムを作り、社会的にも実践できる質の高いビジネスモデルの構築を目指すことが必要であると感じた。

## 9) 授業風景



▲スクールラボの様子



▲スクールラボの様子



▲Startup Baseに取り組む授業の様子



▲アイデアピッチ大会



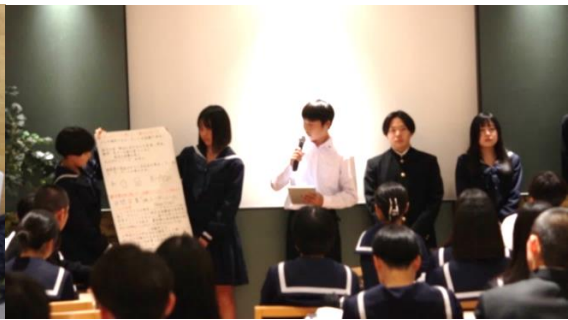
▲修学旅行事前学習会



▲「IU 情報経営イノベーション専門職大学」への訪問

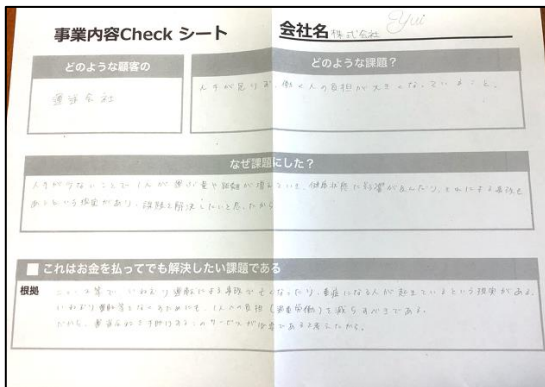


▲株式会社ボーダレスジャパンへの訪問

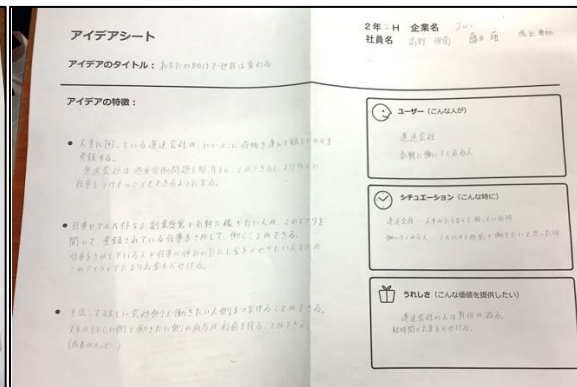


▲修学旅行プレゼンテーション大会

10) 成果物

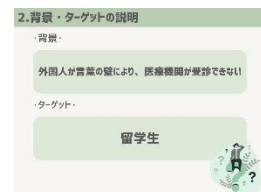
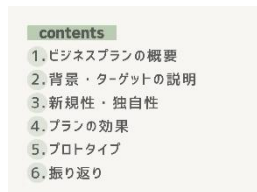


▲課題を再設定した際に使用したワークシート



▲アイデア決定の際に使用したアイデアシート

▼プレゼン大会で実際に使用した生徒が作成したスライド



2.背景・ターゲットの説明

なぜ留学生なのか？

来日と在日は違うけど？

常備足りてない

外国人

検診とならアプリかも

2.背景・ターゲットの説明

**一時的に日本にいる留学生にしよう！！**

3.新規性・独自性

**新規性**

アプリを通して、外国人がスムーズに診療できる

**独自性**

言語の壁が無い＝ストレスが無い

4.プランの効果

1

外国人と医師の  
ストレス緩和

2

医療機関が利用  
できないという  
社会問題の解決

5.プロトタイプ

症状  
予約

help ticket

5.プロトタイプ

help ticket

患者情報  
(症状・予約日時)

Hospita

5.プロトタイプ

Hospita

**診療・予約完了**

5.プロトタイプ

help ticket

**実際に操作して説明！**

6.振り返り

- ・利益をどのくらい貰えるのか聞く
- ・プロトタイプをたくさんの人に使ってもらおう

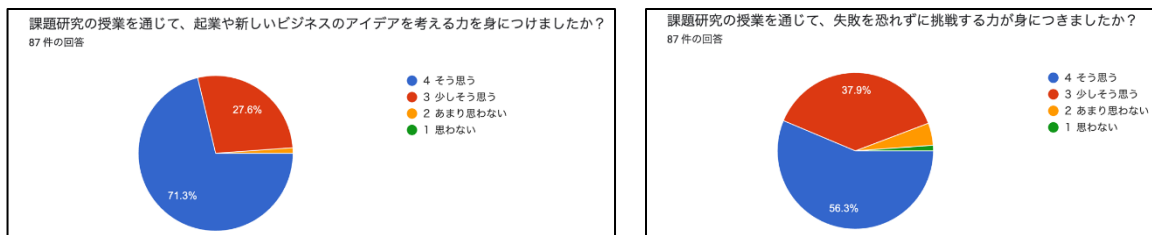
↓

より細かく作る

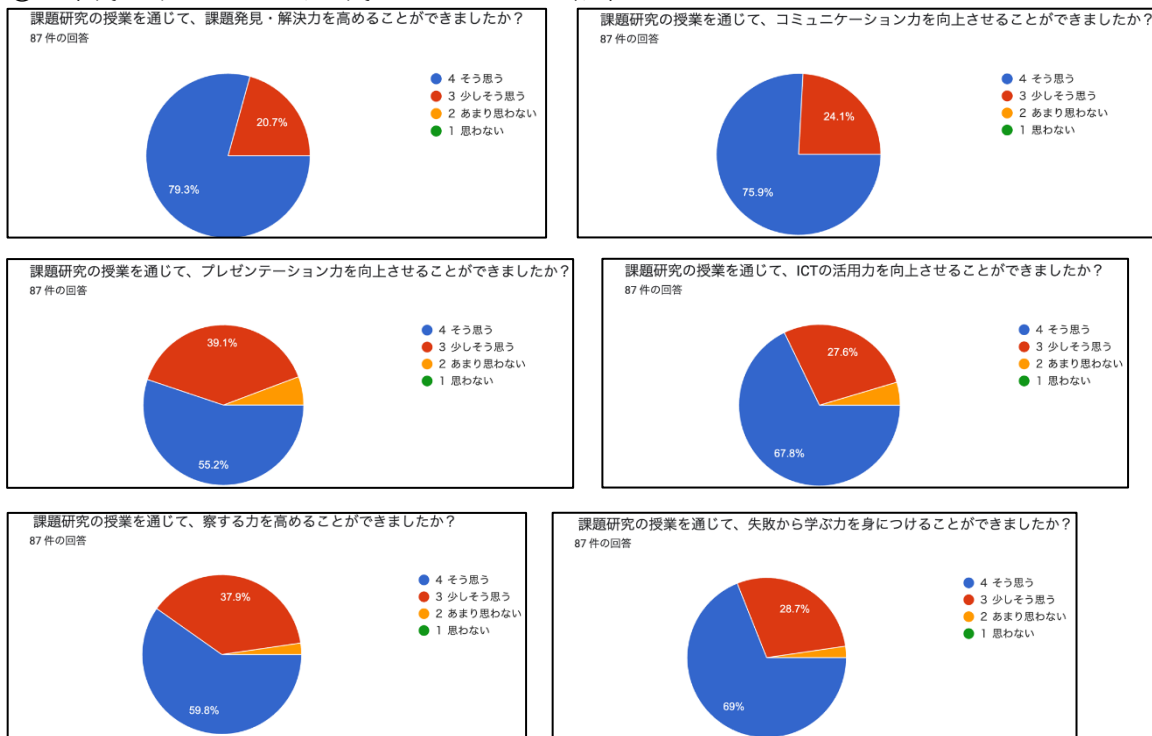
**Thank You for listening**

## 11) アンケート結果

### ① アントレプレナーシップに必要な資質に関するアンケート結果

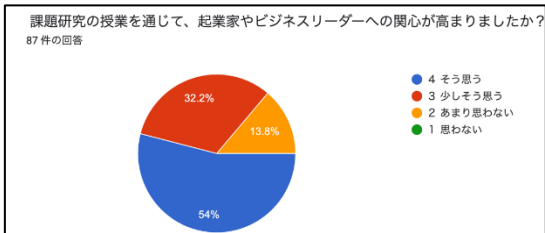
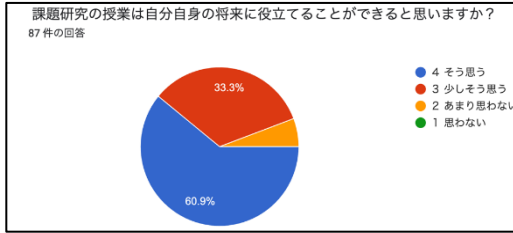
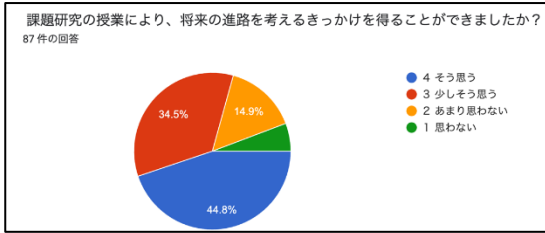


### ② 市商マネジメント力に関するアンケート結果



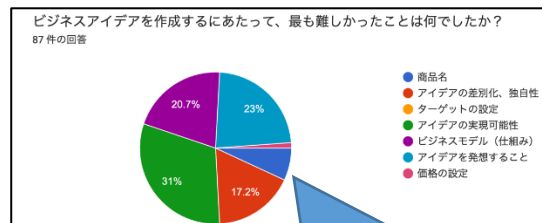
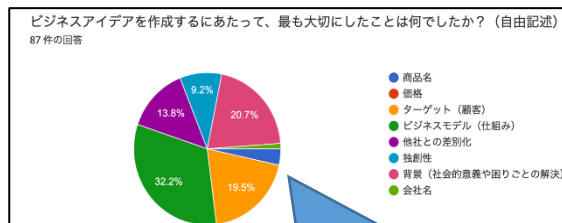
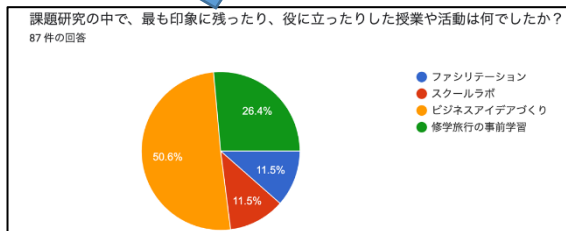
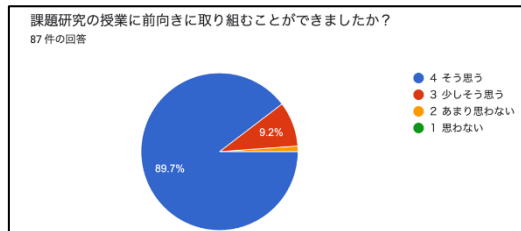


### ③進路意識や起業家への意識に関するアンケート



- 1位 ビジネスアイデアづくり
- 2位 修学旅行の事前学習
- 3位 ファシリテーション
- 3位 スクールラボ

### ④授業に関するアンケート



- 1位 ビジネスモデル
- 2位 背景
- 3位 ターゲット

- 1位 アイデアの実現可能性
- 2位 アイデアを発想すること
- 3位 ビジネスモデル

### ● 次にビジネスを考えるならどのような分野でビジネスを考えたいですか？

- 複数項目あったものを一部抜粋
- ・スポーツ ・教育分野 ・美容分野 ・環境問題 ・観光業 ・サービス業
  - ・高齢社会 ・社会問題 ・AI ・SDGs ・災害対策

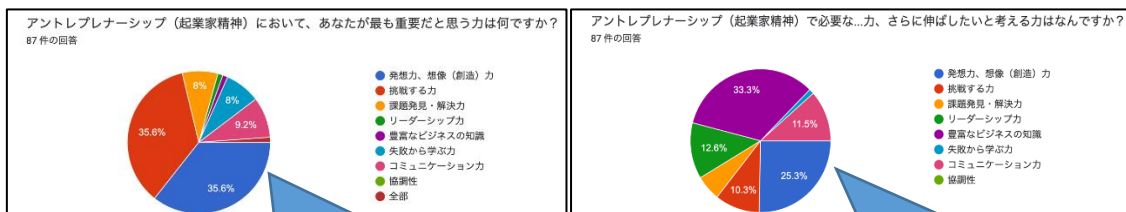
### ⑤ 自分自身の成長や考え方に関するアンケート

#### ● ビジネスアイデアを考えるにあたって、自分自身が最も成長した部分や学びはどのようなものでしたか？（自由記述）

- ・ どのようなことが社会では必要になっていて自分の考えは他の人から見たらどのようなになっているかということを知れたこと

- ・ 人の意見をよく聞くことを最も成長させることができたと思う。最初から否定はせずに一旦同意してから、いい意見になるように頑張れた。
- ・ アイデアを考える時は、内容を気にせずに多くのアイデアを考えてから、アイデアを選んだらいいことがわかった。
- ・ 今まで否定されたくなくて意見を出さなかったけど意見を出すようになった。
- ・ 自分が思いつくアイデアは基本的には社会には既に存在していて、新しいことを思いつくことの難しさを実感した。しかし既にあるものを知る、または現実的に不可能であるかどうかを考え直すというステップを繰り返すことで新たなアイデアを思いつく、つまり失敗から学ぶ力が身に付いたと考える。そして、私自身は0から1をつくるよりも2からそれ以上を発展させていく方が向いているのではないかという気づきがあった。

## ⑥アントレプレナーシップに関するアンケート



1位 発想力、想像（創造）力  
1位 挑戦する力  
3位 コミュニケーション力

1位 豊富なビジネスの知識  
2位 発想力、想像（創造）力  
3位 リーダーシップ力

- 課題研究の授業を通じて、授業前と授業後で「起業」に対する考え方はどのように変化しましたか？

- ・ 課題研究の授業を通して起業するということが難しいことだと思っていたが、起業自体は意外と簡単であったんだと思った。しかし起業しても明確なビジネスモデルや知識や運など様々な要素がないと起業しても成功はできないのだと感じたし、今も起業した後のリスクは考えてしまいます。
- ・ 起業はほんとにすごい人にしかできないと思っていたが、起業自体は成功するかしないかを考えなければ誰にでもできるということ。
- ・ 簡単なものではなくて、どう工夫して他者と差別化を図るかを考えることが大切だと気がついた。
- ・ 起業に対して興味がなかったけど課題研究の授業を通して興味が湧いた。
- ・ あんまり意見を出したりするのを普段は控えているけど、出した方が選択の幅が広がりその分いい意見も出るということがわかりました。
- ・ 授業前は、起業するには社会に必要なものだけを創れば良いと思っていたけど、必要なものを創ったことで自分たちにどれだけ利益が貰えるのかを考えなければいけないこともあって起業は難しいなと思った。
- ・ 最初から明確なビジネスプランを持っているのだと思っていたが、自分の生活を便利にするための開発という気軽な感じで起業してもいいのだと思えた。

(2) 社会マネジメント科地域実践コース2年生

1) 活動主体

高知商業高等学校 社会マネジメント科 2年生 35名

2) 実施授業

観光ビジネス

3) 授業の目的・ねらい

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。①観光ビジネスについて実務に即して、体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。②観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。③ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学習指導要領より)

「観光」「観光ビジネス」の分野についての学びをとおして、世界や日本、地元高知や地方、地域の課題について考え、その解決手段について考える。自治体や企業、NPO や NGO の方々と繋がりを持たせていただき、学校での学びをより深めることに取り組む。

4) 外部講師(敬称略)

講師氏名(所属)	主な講義内容
石筒 覚 (高知大学地域協働学部)	観光とは 呼び戻して欲しい3つのチカラ 「家族 de 森トレ」：ロールプレイング 社マネ型「観光」の取組
六反田 裕 (株式会社 One Habit)	新しい観光ビジネス：ワーケーション 親子ワーケーション「家族 de 森トレ」 ：ロールプレイング
長尾 智史 (高知県観光振興部観光政策課)	高知県が取り組む観光政策について 高知を知ることから始めよう (食・自然・歴史・文化)
木森 颯人 (高知大学 人文社会科学部 国際社会コース)	現役大学生の挑戦 挑戦するために必要なこと 出会い・チャンスは人生を変える
岡村 龍弥 中村 仁洋 (こうち観光ナビツーリストセンター)	センターの取組 インバウンド向けサービスについて 旅行行程の策定から高知の魅力を発見する
浜崎 洋 久保田 智子 山崎 翔太郎 (高知県観光コンベンション協会)	高知県の観光振興策を立案するために必要なこと 高知県のスポーツツーリズムについて
加藤 愛子 (日高村地域おこし協力隊)	「世界と繋がる地方創生」 青年海外協力隊と地域おこし協力隊の活動

講師氏名(所属)	主な講義内容
森戸 香奈子 (じゃらんリサーチセンター)	プロジェクト促進の「いろは」を学ぼう！

5) 教科横断的な授業

科目名	授業内容
英語コミュニケーションII	高知県の観光地をPRする動画の作成

6) 実施実績

令和5年

月日(曜日)	授業・講座	内容
4月14日(金)	授業	オリエンテーション・個人資料記入
4月18日(火)	授業	個人資料記入・共有：地域実践コースでの学びについて
4月19日(水)	授業	マインドマップ作成：高知県について知る (自然・食・県民性・文化・観光)
4月21日(金)		
4月25日(火)	授業	マインドマップ作成⇨文章作成
4月26日(水)	授業	観光ビジネスとは？全国11カ所モデル地域調べ学習
4月28日(金)	講座	観光とは・呼び戻して欲しい3つのチカラ
5月9日(火)	授業	11カ所モデル観光地個人調べ学習
	講座	観光×〇〇 親子ワークショップ「家族 de 森トレ」について
5月10日(水)	授業	11カ所モデル観光地個人⇨グループ共有・作成
5月16日(火)		
5月17日(水)		
5月19日(金)	授業	11カ所モデル観光地グループ発表
5月24日(水)	授業	浦戸小学校スポーツフェスティバル支援プロジェクト(横断幕作成)
5月26日(金)	講座	高知県が取り組む観光政策について
6月2日(金)	講座	観光×〇〇 親子ワークショップ「家族 de 森トレ」 ロールプレイ
6月6日(火)		
6月7日(水)	授業	11カ所モデル観光地グループ発表
6月9日(金)	講座	観光×〇〇 親子ワークショップ「家族 de 森トレ」 ロールプレイ 振り返り
6月13日(火)	講座	現役大学生の挑戦 「出会い・チャンスは人生を変える」
6月14日(水)	授業	11ヶ所モデル観光地グループ発表
6月16日(金)	授業	11ヶ所モデル観光地グループ発表・振り返り
	授業	11ヶ所モデル観光地⇨観光振興策見える化① ⇨観光振興策見える化② ⇨観光振興策見える化③高知の魅力
6月20日(火)		
6月21日(水)		
6月23日(金)	授業	高知の魅力マップ作成・期末考査範囲の共有

月日（曜日）	授業・講座	内容
6月27日（火）	授業	商店街フィールドワーク（校外学習） 高知県の観光振興策立案に向けて情報収集
7月7日（金）	授業	I 学期 振り返り
7月11日（火）	講座	観光振興策を立案するために必要なこと 高知県のスポーツツーリズムについて
7月12日（水）	講座	アンケート実施 （大学生のPRポスターについて：相模女子大学）
7月14日（金）	講座	インバウンド向けサービスについて 旅行行程の策定から高知の魅力を発見する
9月5日（火）	授業	導入（高知県の観光振興策の考案→提案） 夏休み振り返り作文
9月8日（金）	授業	問題の発見（現状の認識・目標設定） ⇨情報収集（観光客・外部情報・地域情報）
9月12日（火）		夏休み課題→課題の再設定 （修学旅行に向けた取組：チーム作り）
9月13日（水）	授業	修学旅行に向けた取組み：チーム目標の作成
9月15日（金）	授業	原因探究（問題の本質の明確化）⇨原因分析 実態把握（観光協会）・フィールドワーク・アンケート調査・自治体等の調査レポート
9月20日（水）		
9月22日（金）		
9月26日（火）	授業	解決策立案（解決するためのアイデアの創造） ⇨創造思考（アイデアの発想） インプット⇨アウトプット仮説⇨検証 【地域のケーススタディ・成功例や失敗例から学ぶ】
9月27日（水）		
10月3日（火）		
10月4日（水）		
10月11日（水）		
10月13日（金）		
10月17日（火）	授業	研修旅行 訪問研修に向けた準備・作業 （アポイント・行程表・旅のしおり作成） ※段取り・役割分担
10月18日（水）		
10月25日（水）		
11月1日（水）		
11月7日（火）		
11月8日（水）		
11月10日（金）	授業	研修旅行振り返り【関係構図作成】
11月21日（火）		
11月22日（水）		
11月24日（金）		
11月28日（火）	授業	研修旅行レポート作成（個人）
11月29日（水）		
12月1日（金）	授業	食IGP出店に向けた話し合い 合意形成（リーダー決定）
12月12日（火）	講座	「世界と繋がる地方創生」青年海外協力隊としての活動と地域おこし協力隊としての活動・振り返り
12月13日（水）	授業	食IGP出店に向けた話し合い （アダージョ共同開発商品）

12月15日（金）	授業	食 IGP 出店に向けた話し合い（BS：模造紙）
12月20日（水）		
12月22日（金）	授業	食 IGP 出店に向けた話し合い（BS・企画立案）

令和6年

月日（曜日）	授業・講座	内容
1月9日（火）	授業	観光振興策企画立案に向けた取組 3学期授業について
1月10日（水）	講座	食 IGP 出店に向けた心構え・注意すべき事柄
1月12日（金）	授業	観光振興策企画立案に向けた取組 ガントチャート作成
1月16日（火）	授業	観光振興策企画立案に向けた取組 企画書・発表資料作成
1月17日（水）		
1月19日（金）		
1月23日（火）		
1月24日（水）	授業	3年生プレゼンテーション 3年生の体験や経験から学ぶ
1月26日（金）	授業	なぜ、外国人観光客は日本に観光にやってくるのか
1月30日（火）	授業	観光振興策企画立案に向けた取組 企画書・発表資料作成
1月31日（水）	講座	じゃらんリサーチセンター出前講座（森戸さん）

#### 7) 授業担当者感想等

社会マネジメント科では、社会貢献活動について学び、行動することをテーマに掲げている。その中で「観光」「観光ビジネス」の分野についての学びを通して、世界や日本、地元の高知や他の地方、地域における様々な課題に対処し、その解決策を考え、実践的な力を養うことを目指している。

「観光ビジネス」の科目を通して得られる知識とスキルは、地域や国の観光資源を最大限に引き出し、地域経済にプラスの影響を与える力となる。高知の独自の文化や美しい自然、歴史的な場所などを活用し、観光業を通じて地域経済を刺激することができ、雇用の増加や地域経済の活性化が期待される。このアプローチは、地域経済の持続可能な発展に寄与し、地元の魅力を広く発信する一翼を担っていくのではないかと感じた。

令和5年度の取り組みでは、生徒たちはまだまだ「本当の高知」「高知の魅力」を知らないと感じる場面があった。幼少期から「高知は何もない」と感覚的に刷り込まれ、育ってきたためと思われるが、果たして本当に「高知は何もない」のか。生徒たちにはこの課題に対して検証の時間を十分に確保できなかったことが課題としてあげられる。

高知大学の石筒先生の講座でご示唆いただいた「国の光を観る（観に行く）」という「観光」の語源や、外国人が訪れる際の観光目的を考えながら、来年度以降も社会マネジメント科型の「観光」に取り組んでいきたい。

※ 社会マネジメント科型「観光」・・・高知の魅力を観光によって引き立て、それが地域に貢献することに繋がる。

今年度から始まった観光ビジネスの取り組みでは、生徒が自らの「やってみたい」を実現し、個々の能力を向上させることのできるカリキュラムの検討に力を注いできた。自身のホームが対象クラスのため、年度当初に主任として大きく以下の4つの方針を掲げ、ホーム経営と結びつけながら授業展開を行ってきた。

- (1) 自分中心ではなく周りを大切にできる言動と行動ができる生徒の育成（自分が楽しいを優先させ、誰かの成長を止める行動や言動はしない）
- (2) 自己都合で物事を判断・決定させない（補習や委員会などの組織の仕事や、企業や地域の人との連携活動において自分の都合で物事を判断、決定しない）
- (3) 楽しさの裏側が見える生徒の育成（自分が楽しい時にしんどい想いをしている人がいないか考える）
- (4) 自分の得意なこと、やってみたいことを伸ばせる・発揮できる環境を提供していく（観光ビジネスや学校生活の中で、生徒の個々の能力が伸ばせる様に役割を与えていく）

これまで社会マネジメント科地域実践コースの生徒が取り組んできた「クラスで一つの商品開発」とは異なり、5人×7つのプロジェクトチームを編成し、高知県の観光振興策の立案に向けて学びを進めた。年度当初、生徒の活動における科学的根拠や明確な目的が希薄化しているという状況や、生徒の活動における専門的知識の少なさなどを課題に感じていた。これらの課題を解決するために、知識のインプット「外部講師による講演会・大学、外部団体のセミナー受講・研修旅行での企業訪問等」・フィールドワーク「浦戸小学校のスポーツフェスティバル支援」・親子ワークショップ「家族de森トレ」へのインターンシップ・「高知大学地域協働学部の大学生の活動の視察等」を繰り返しながら、生徒たちが自ら興味や関心を持つ学習に参加できる環境を整備することを目指した。

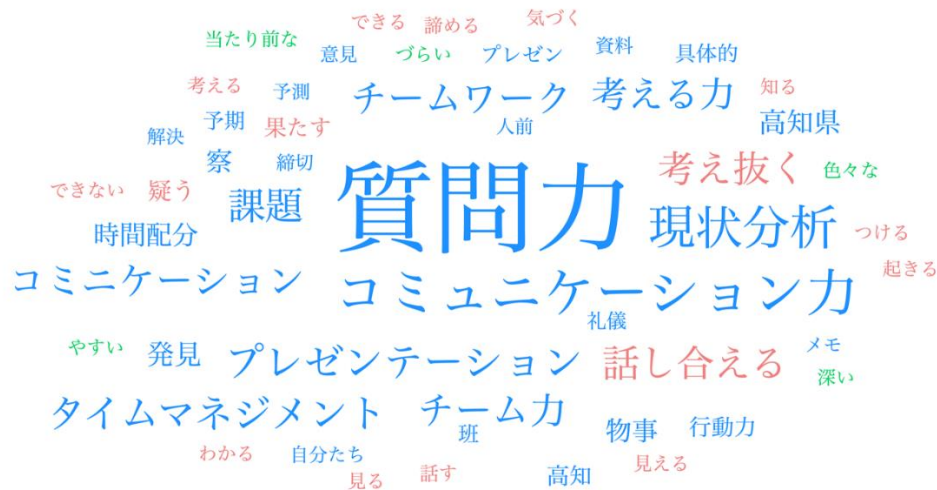
その結果、生徒たちはプロジェクト(高知県の観光振興策)実現に向けチームで役割分担をしながら、自主的に調査活動や外部関係者との連携を行い、自ら「やってみたいこと」に挑戦する姿が見られるようになった。必然的に生徒一人ひとりに役割が生まれ、自身のやってみたいことに挑戦できる環境は、徐々にお互いを大切する行動、時には指摘をし合う関係性が生まれてきたように感じている。

しかし、一方で高知県の観光振興策の立案に向け授業を展開していく中で、生徒自身にインプットさせた知識や情報がつながっておらず思いつきやインターネットの情報から、企画立案を進めていくチームが多いことに苦慮した。この原因としては、初年次手探り状態で十分な授業計画を練ることができず、イレギュラーなタイミングでの講演会や生徒にインプットさせたい知識や情報の順序に問題があったと考える。また、高知県の観光振興策を立案する中で、生徒がビジネスモデルの視点を持つことができず、高知県の抱える根本的な課題を解決するための振興策立案には至っていないと感じている。次年度は、生徒の「創造力」「企画脳」を高める学習活動や、生徒が1年次から学んできた他教科や商業科目との結びつけを行いながら、自分たちの振興策を多面的・多角的に分析する仕掛

けを取り入れていきたい。そして、生徒のシビックプライドを高め、観光が及ぼす地域への効果や地域資源の魅力（光）を発信し、地域観光を開発していきのできる人材の育成に尽力していきたい。

## 8) 資料（実施アンケートの結果）

【1】 観光ビジネスの授業を通して身についた力は何ですか。



【2】 【1】の力がついたと思う理由

（いつ・どこで・どんなことがあった時に身に付いたか）

- 修学旅行前から自分たちのプラン作成に向けて班それぞれで行動していったことで、班活動が増えて意見をたくさん出し、自分たちのプランが作成できないため、良いものに仕上がらないことに気づいてそこから自分の意見を出すようになった。班内で出た意見も誰かがまとめないと、一つのものにならず自分から班の意見をまとめるようになった。人前で話す力は1人でプレゼンをする機会、班でプレゼンをする機会が増えたことで身についた。
- 高知県の現状と課題を発見し、それを解決するための策を東京へ企業訪問したり、観光ビジネスの授業で講義してもらったりして、課題解決に進んでいってると思うから。
- 自分たちで企画を作っていく際に、沢山の人の呼び込むためには何をアピールすればいいのか、客観的に高知県について考えた時に他の県にはないものは何か身近なことから考えることができたから。
- 普段の観光の授業。修学旅行で東京と高知の観光などを比べたとき。
- 修学旅行の企業研修やサンプラザさんとの話し合いの途中で話を聞いている中でこんなこと質問しようかなとか考えながら話を聞いているから。
- 交通に関することを考えていくなかで高知県の交通の課題（例えば公共交通機関の利用者数が少ない）を見つけることができた。修学旅行などで集合時間に遅れた時に、みんなに迷惑がかかってしまって、個人行動ではなく集団行動だから1人の遅れが全体に迷惑をかけてしまうと実感して、時間を守るようになった。  
修学旅行先の企業に伺う時に必要な書類をしっかりと守ることができた。



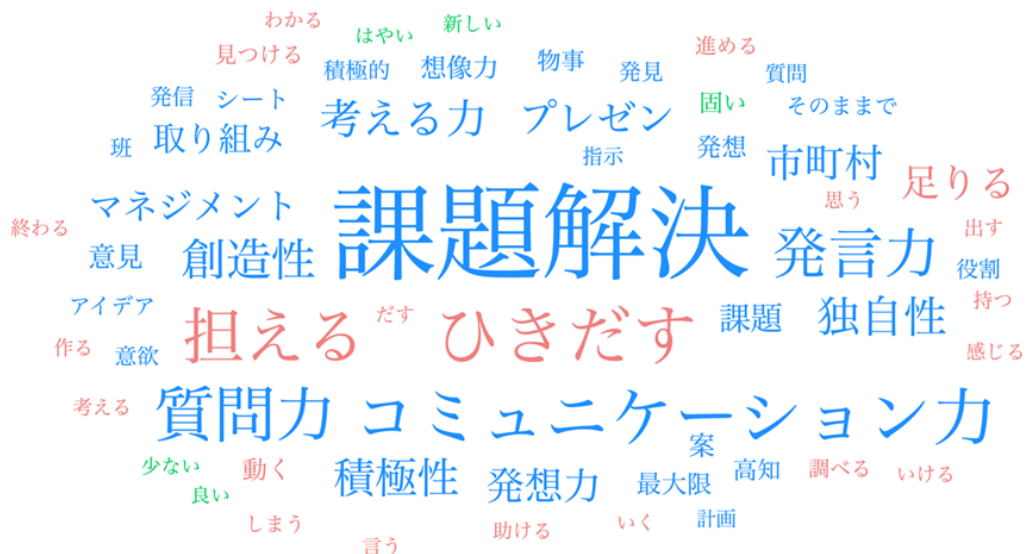
書類を書くときの言葉の使い方であったり、何う企業に失礼にならないように、もし印象が悪くなれば次の代からは断られてしまうかもしれないという危機感を持てた。私たちは交通×遊びに関することに取り組んでいて、都庁さんから話を聞いてそのことをそのままやってみるのではなく自分たちだったらこうするとかこうしてみたほうがもっと楽しくならんんじゃないかというオリジナルの答えを出している。

- 現状分析力と課題分析力は、高知県の観光業に関する課題などを調べる時に身に付いた。
- 普段のグループワークの中で身についた。  
元々得意だったけど、個人ワーク、グループワーク両方でプレゼンを行ったことで、これまでにはなかった力が身についた。ボランティアや、企業の方と関わる中で、予想できないこともあったけど、大ごとになることなく、対応できた。
- 課題をするにあたって、必ずクラスのメンバーと話し合っていたから、高知の魅力について自分で調べて理解することができたから。
- 班活動やグループワークが多い中で、みんなで課題を発見し、どのように解決するのかを話し合ってきたから。
- 観光の授業のグループで意見を出しあう時。また、その意見をまとめる時。
- 東京での修学旅行でクラス全体で話を聞くときや行動する際に誰かが発言するので静かにしようなど次の行動を読んで察する力が身についたと思います。
- 今プランを立ち上げている中でもターゲットや現状、課題などのデータを使ったり、テーマに合わせて考えていく中で例えばターゲットだったら県外の人だけじゃなくて、県外のどの年齢層なのかということを考えたりした。
- 観光ビジネスでは高知のことをより深く知り、高知の課題を解決することに取り組んでいます。東京へ研修旅行に行った際に企業訪問し、東京での企業の取り組み方と高知の取り組み方を比べたことで大きな違いや強み・弱みを考えることができたからです。
- 修学旅行で企業訪問をした際、班の目標で一人一回は必ず質問すること心がけていたので、しっかりと話を聞き、質問することができた。
- プロジェクトをブラッシュアップする時に自分たちが当たり前で過ごしている日常の中でこれは観光資源になるのではないかと疑い考えながらするようになったから。
- 観光の授業で観光地として指定されている都道府県を発表するときにみんなは何も知らない状態なのでどうすれば伝わるプレゼンになるのか考えた時に、文字で大事なところを大きくしたり、色を変えたり、文字だけににならないように写真で想像がつくようにした。
- 観光ビジネスの時高知県の課題を解決するための案を出すときに高知県の課題を調べる時間の時に身についた。
- 観光のプロジェクトをチームで考えているときに、チームのメンバーが見ていない、見つけていない部分を見つけることが多かったから。
- 観光のために高知の課題を見つけたりしたこと、修学旅行で訪問させて頂く企業に自分たちでアポをとったりしたこと、グループで話し合うことが多く、その時にみんなで意見を交換したりまとめたりしたこと、自分たちでスライドを作り、みんなの前で発表したこと。
- グループワークが多いので、グループワーク中にグループで行動して、自分たちで時間配分や、プレゼンのことや、課題発見や解決する機会でそういう力が身についた。
- 観光ビジネスの授業を受ける前は講義を受けても講義に関連する疑問が全く浮かばなかった。内容の濃い質問ができなかったけど、観光ビジネスの授業を通して講義やプレ

ゼンをたくさん聞いて毎回質問を考えることが身に付いたことでプレゼンを聞いた後自分が何を聞きたいのかをすぐに考えて質問することができているなど感じたから。

- 修学旅行に行ったときに自分たちの課題は身近にあると教えてもらって、その時から一つの課題から繋がる課題があるということ学んだ。
- 修学旅行で県外行った時に人が温かく、ご飯も美味しい落ち着く雰囲気などの高知の魅力を再発見することができたから。またその修学旅行の班で企業を訪問したり、企画を立てたりとチームで協力する力も身についた。その中でもチーム内や訪問先で自分の意見や考えを伝える時にどのような伝え方をしたらいいのか考えながら発言したのでコミュニケーション力も身に付いた。
- グループワークで仲間と関わる時や修学旅行で、企業の方たちと関わる時。講義を受けてる時に大事なことはメモを取ったりする時。
- 観光では自分たちの企画などプレゼンする機会が多く、その度にプレゼンの資料を作成していたため。
- 研修旅行で研修先へ連絡をして何度も断られた時や、急な予定の変更で当初の目的が果たせなくなりそうになった時などに、諦めずチームで「どうすれば目的を達成できるか」を考え、継続して取り組む事ができるようになったから。
- テストやレポートなどでは具体的に書かないと相手に伝わることも伝わらなかった。り、具体的に考えることで自分の考えが深まったり新たな学びが生まれたりすることができたので文章を書くときなどは具体的に書くことを意識できるようになった。
- 自分の住んでいる高知なので、高知の課題は何かは自分の中でわかっていたけど、それは少子高齢化や人口減少などのありきたりなことばかりで、日常生活を送っていると休日に出かけた場所で高知の課題として、この観光スポットには食べる店が少ないなどの普段なら気づかないことや、気にしなかったことに目を向けるようになったからです。
- 修学旅行などで企業研修へ行き、高知の内側からみた魅力や外側から見た魅力など色々な方向から高知を見つめ高知の観光を活性化させるためにはどうすればよいかという考えをできるようになったから。
- 今まで決められたことをただやってきていたけど、観光ビジネスでは自分たちで課題設定したり問題点を見つけて解決しようとしていたり、自分から学んだりしないときなくて、修学旅行の企業アポイント取りやチームの活動などで身に付いた。

【3】観光ビジネスの授業の中で自分自身にまだ足りないと思った力は何か。



#### 【4】 【3】の力が足りないと思う理由

- クラスの話し合いになった時には積極的意見をみんなに伝えることができん。講師の人が講演に来てくれたときに、自分のしたい質問が出てこんかったり、積極的に質問できん。
- グループワークのときとかに周りの意見に流されてしまって自分の案を言えなかった。
- 企画を作る時、何か新しいことを始めるようにしようとしても他の既にあるものと似通ってしまったりするから。
- 課題とその解決策を考えるとときに課題や今の現状を調べる時に大まかな内容しか調べられていなくて具体的な例やなぜこの課題を解決しないといけないかを見つけられていないから。
- 構成とか色の配色とか見やすさとか良い人を見たらまだまだやなって感じることもある。課題を出す際に、ぎりぎりに終わらせることが多いから。
- グループで話す中でメンバーが変われば変わるほど、仲良い人がいる時は発言が多くなるけど、そこまで仲良い人がいないみたいな状況の時に発言したくても発言するや勇気が出なくなってしまったから。
- 食ワングランプリでみんなの前で話をした時に、まわりをうまくまとめる力が足りないと思った。
- グループワークで意見を出す時や、高知のいいところを書くときなど課題を発見しても、それを解決するためにどうしたらいいのか意見を出すことができるけど、まだそれを実行できていないから。
- 修学旅行の際に企業の方にお話をしてもらおう際に自分たちの意見をうまく伝えることができないうって課題が見つかったがその課題を解決する力がなくうまく意見を伝えることができなかつた。
- 質問をするところとかで、浅い質問しか思いつかないから。
- 例えば、高知と東京、大阪など都道府県としての取り組みであったり、政策・魅力を比べて解決策を出すことはできています。けれど外国人観光客や県外の人から全然知られていない市町村については深く触れることができなかつたからです。
- 発言する前にいろんなことを考えすぎてしまう。
- どうやって自分たちのプロジェクトに人を呼び込むかとなった時やどうやったら楽しんでもらえることができるのかという時に楽しいと思える発想が思い浮かばないことが多いから。
- 東京に研修旅行に行った時に、企業のお話を聞いて質問するときに、ありきたりな質問になってしまったり、どんな質問をすれば自分たちの今後の活動に役に立つか考える力が足りないと思った。
- グループで何かをつくったりワークしたりするときに誰かが役割りがなかつたり、よくわかってないときがあったから。
- 班活動などで自分の意見をだしてない。

- グループワークをしていて思いついたら考えついたことがあるけど、その時点のもので満足して発言することが少ないと感じるから。
- 外部の方からお話を聞かせて頂いた時に、質問ができないから。
- リーダーシップをとって進めるのはできるのに、チーム全体を見れたつもりでも考えられていた範囲は狭くて、チームメイトに〇〇はどうする？とか、自分が考えてなかったところで考えさせてしまったり、先に動く能力がなくて時間に間に合わなかったりしたことがあったから。また、チームメイトが先に動いている姿を見て尊敬できたから。
- 観光ビジネスの授業を受ける中で、プレゼンシートを模造紙やタブレットを使って作成する時間が多くあるけど、たくさん時間が設けられているのに模造紙の構成や色の使い方重要な部分をどうやって目立たせるかなど全てを考えるのにとっても時間がかかってしまって最終的に時間が足りなくなってワンパターンの模造紙を作っているなど感じるから。
- たくさんの人の講演を聞く中で自分たちのプレゼン力や資料の作成力はまだまだだなと思うときがある。
- 連絡をとっている大塚さんからの課題である企画書を期限ギリギリまで送れてないこと。
- 課題を見つけることはできるようになったけど、その出た課題を実現的にどうやって解決していくかを考えた時に実現的ではなかったりしたとき。
- 資料などを作る時に私だけになっている。他の人は何をすれば良いかわからない、めんどくさいなどの状態であったりして私1人で作ることが多かった。私は他の人に指示するのは時間がかかったり、完璧なものを作りたいという気持ちから周りに頼ることをしなかった。
- 観光の授業で講義を受けるときや、企業研修の時にうまく話すことができなかったため、足りないと感じた。
- 授業内で質より量を求める時が何度かありましたが他の人に比べて数が少なかったり、頭を柔らかくして考えることができずにいました。また、班内での活動では他の人が多くの自分の意見を言っている中、私は数えるほどしか意見を共有できなかったということがありました。
- 毎日の通学で電車に乗っている時、高知県庁前で降りる人がほとんどだけど、最初の方に高知県庁に行く人が多いため県庁よりも向こうに行きたい人が乗れずにいることが多々あります。その時に、県庁専用の電車を時間を決めて運行すれば効率よく人が乗れると思ったけれどそれを実行しようとは思いませんでした。そこが足りない部分です。
- 資料を作る時などに色の使い方や文字の書き方などが下手だなと思う。
- プランなどを考えるときに、このプランを行ったらどうなるのかなどの考えるとき、案が出なかったり詰まってしまうことがあるから。
- グループ活動で自分の考えがあり、伝えたいと思うけど、なかなか言い出せずに何にもならなかったから。

**【5】 自分自身にとって観光ビジネスの学びを一言でいうと**

高知県の課題・問題解決に貢献できる / 高知県の姿 / 人との繋がり / 成長  
高知の魅力を活かす / 新しいことにチャレンジできる学び / 魅力発見 / 知る  
社会のことを一足先に学べる / アイデア出したもん勝ち / 他では経験できない  
人との繋がりを更に進化させて、自分を更に成長させて高知に貢献していくという学び  
高知の観光政策について学び、グループで高知の課題について解決する  
人と人との繋がりが大切になるもの / いろんな視点で物事を見る / 高知県を知る  
未来 / 高知の観光を活性化しつつ自分の能力も / 社会経験 / 新しい発見  
高知県の課題も自分の課題も発見できる / 将来性を身に付けられる / 新しい挑戦  
高知の魅力を自分のアイデアで光らせて、自分自身の成長につなげられる観光ビジネス  
グループで協力して課題解決に向かうことが大切 / 学校外の大人との関わり  
多くの人と関わり成長することができる / 地元の活性化 / 課題発見解決  
学びの視野を広げる手段 / 知識を深める

**【6】 自分自身にとって地域実践コースの学びを一言でいうと**

多くのことに挑戦できる / 社会活動をすることで、自分にもメンバーにもトクになる  
地域の未来へ繋がる / 今まで身につけられなかったことを身に付けられる  
クラスの意見を一つにし、お互いに敬意を持ちながら協力していく学び / 地域貢献  
挑戦 / 仲間との絆 / 積極性が身に付く学び / 仲間必須 / 高知県活性化  
社会体験 / 挑戦して自分の可能性を見つけれる / 高知県を活性化させる  
チームメンバーと共に社会で必要な力と、他の人よりも目立つ自分だけの力を身に付け  
て、地域の活性化、地域の輪の繋がりを深める地域実践コース / 高知を深く知る  
高知県の現状課題を知り、それをグループのみんなとコミュニケーションをとりながら解  
決策を考えることができる？ / 学力面でも、人間的にも成長できる環境 / 挑戦  
地元へ寄り添う / 色んなことに挑戦できる / 高知県を深く知ることができる  
地元を活性化させるためのアイデアを学ぶ / 社会で必要になる力 / 地域活性化  
創造 / 協力 / 地元へ貢献 / 挑戦

9) 授業風景

▼ 外部講師による授業風景

(高知大学地域協働学部 石筒覚先生)



(株式会社 One Habit 六反田裕さん)



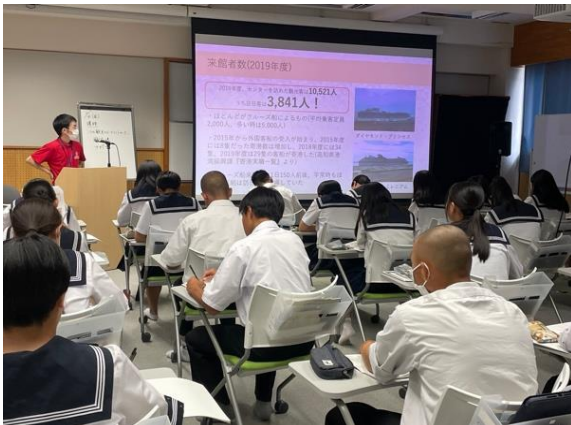
(高知県観光振興部 観光政策課 長尾智史様)



(高知大学人文社会科学部 4年 木森颯斗さん)



(こうち観光ナビツーリストセンター  
岡村龍弥様・中村仁洋様)



(高知県観光コンベンション協会  
浜崎洋様・久保田智子様・山崎翔太郎様)



(日高村地域おこし協力隊 加藤愛子様)



(株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター  
主席研究員 森戸香奈子様)



▼ 課外活動の様子

(高知県観光パンフレットの分析)



(親子ワークショップ「家族de森トレ」ロールプレイ)



(クラス内会議)



(浦戸小学校スポーツフェスティバル支援活動)



(親子ワークショップ「家族 de 森トレ」インターンシップ)



(高知市中心商店街フィールドワーク)



### ▼東京都研修旅行の様子

(東京都墨田区観光協会訪問)



(すみだ3M運動視察 in ちいさな硝子の本の博物館)





(すみだ 3M 運動視察 in 片岡屏風店)



(すみだ 3M 運動視察 in 藍染博物館)



(すみだ 3M 運動視察 in 折り箱博物館『木具輪』)



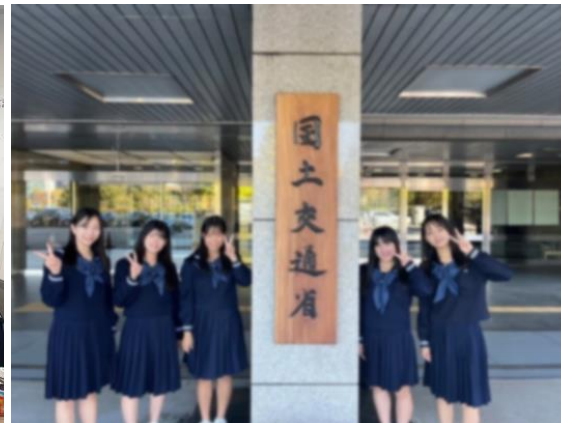
(国土交通省 観光庁訪問)



(公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会訪問)



(東京都交通局訪問)



(JAL SKY MUSEUM 企業見学)



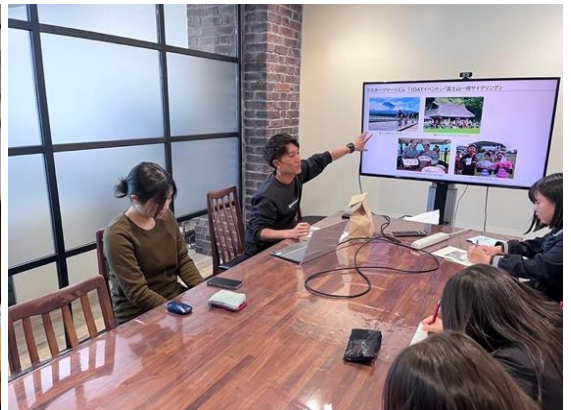
(一般社団法人 日本スポーツツーリズム推進機構訪問)



(NPO 法人日本渚の美術館訪問)

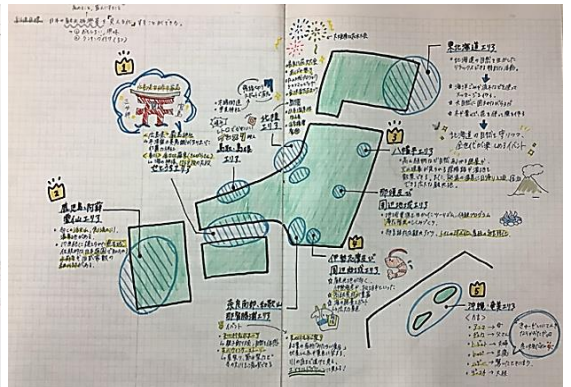


(株式会社ルーツ・スポーツジャパン訪問)



10) 成果物

▼ 高知県観光振興策マップ作成



研修旅行振り返り

▼高知県観光振興策企画書 (2024/01/31 時点) A~G チーム一覧

### 現状分析

日本全国に高知県の観光客が広まっております。観光客が少ない。それに加えて高知県の観光消費額も少ない。このままだと高知県が活性化していかなくなってしまう。

**東京都と高知県の違い【令和4年】**

- 高知県の観光消費額  
1人あたりの観光消費額→ 2万6,876円  
全体の観光消費額→ 916億3,442万円
- 東京都の観光消費額  
1人あたりの観光消費額→ 4万3,274円  
全体の観光消費額→ 4兆3,274億円
- 高知県観光客数  
県外観光客→ 370万7,000人  
東京観光客数  
県外観光客→ 15億4,247万人

観光客が盛んな東京都と高知県を比較すれば高知県の観光客が活性化されていないことがわかる。

### 課題整理

①高知県に観光客が来ないため高知県の観光客が低迷

↓

②観光消費額が少ない上、観光消費額のうち土産代に使うお金の割合が少ない。

↓

③どうしたら高知県の土産を買って帰ってくれる人が増え、県に観光消費額を伸ばすことができるのか。

### プラン概要

- ①高知県の遊び場を調べる
- ②旅行会社さんと一緒に観光を中心とした旅行プランを立てる (全国に高知の観光を広め、観光客、観光消費額ともに増加させる)
- ③立てたプランを使って高知県を旅行してもらう (自分たちの立てたプランで100人以上に高知を旅行してもらう)

このプランを広めるためにSNSを使って宣伝する!!

### ニーズターゲット

カップル  
ファミリー  
若者  
県外の人

### 新規性

- ①県外の人に高知県を好きになってもらえる
- ②高知県を旅行してもらうに加えて、高知の遊び場を法かしていきける
- ③モノ消費→コト消費に

### PR方法

SNSが発達している今だからこそSNSを利用して!!

- 自分達でPR動画を作り、旅行プランの利点や高知の魅力などを明確に伝える。
- 作ったPR動画を高知県のPRサイトに掲載してもらい、人の目につく機会を増やす。

### 効果

高知の観光客と観光消費額が増加する

高知のことを知ってもらえて知名度・認知度増加に繋がる

多くの人に高知県の魅力を知ってもらえる

# お弁当project

B班 織田向日葵 下村心美  
松田明英 芹聡子 筒井美輝

## 1 現状分析

### 強み

カツオ以外にも美味しい食べ物がある。生産数日本一の野菜、果物が他産ある。新鮮な魚が沢山食べられる。

### 弱み

高知の魅力である新鮮で美味しい食材が、県外の人に知られていない。カツオ、ゆずしか知られていない。形が崩れて売れずに廃棄されているものが多く出ている。

## 2 課題の整理

### 高知県の課題

#### ①知名度

研修旅行で出会った東京の方たちに「高知県の食材といえば？」と質問したところ、ほぼ全員が「カツオ」「ゆず」と答えた。

ミヨウガやウツボなど、カツオやゆず以外の食材の知名度は低いと感じた。

#### ②食品ロス

高知県の食品製造業から出る食品ロスは、推計で年間972t。

品名	数量	重量	価値
食品ロス	972,000	972,000kg	約100億円
野菜	400,000	400,000kg	約40億円
果物	100,000	100,000kg	約10億円
その他	472,000	472,000kg	約50億円

## 3 プラン概要

少し形が悪かったり、傷があったりして廃棄されてしまうような高知県の野菜などをふんだんに使ったお弁当をスーパーや、人の目につくところで販売する(ロスを直接的に減らせる)

そのあと、販売の反省や成果などを元に県外で販売する(オンラインでも可)

- (1)農業だけでなく十分に利用できる収益が得られず、第三次産業と結びつけてお弁当などを販売することで、その分の収益が農家の方に回って少しでも貢献できる。
- (2)全国で増える食品ロスをこの高知から無くしていく。啓発活動につながるような活動にする。
- (3)仕入れ価格も安く仕入れることができる=安く販売できて売り上げも上がる

## 4 ソーシャルニーズ・ターゲット

ソーシャルニーズ: 地域の野菜を消費したい!!

健康的なお弁当が食べたい!!!!

ターゲット: 地域の方々、子供から高齢者まで性別関係なく

## 5 新規性・独自性

- 他の弁当と違う点: 高知県の元々は市場に出回らないような野菜をふんだんに使用している
- 健康でかつ地産地消ができるメリットあり
- 高校生が1から作ったという点、使っている食材の影響で購買意欲を上げることができる

## 6 PR方法

- ・ SNS(Instagramなど)
- ・ ポスター作成、掲載

商品の情報を発信したり、高校生が作ったという点をアピールできる

最近情報を得る手段として一番使われているものがsns。高齢者世代には均等に情報が回せないという課題もある。↓  
直接お店で情報を得たり、近隣の人からの情報を得ることが多いため、店頭で目につくところで販売したりチラシを配る

## 7 効果

生産者: 特産品の売上UP・食品ロス削減

観光客: 地域の食材が手軽に楽しめる

地元民: 観光客の増加

知名度の向上により観光客が増加し、観光業が潤う



## 1 現状分析

高知県は森林面積割合が84%と全国第1位で、そのうえ海に面している県。

観光地としての魅力を持っていて、自然がたくさん残っている。しかし、高知県のPR力が低く、県内の人高知県の自然の魅力を伝えることができていない。なので、イベントを通して県内の人に高知県の自然について知ってもらわなければならない。

## 2 課題の整理

高知県を知っている人が少ない  
→高知県の魅力を知ってもらうために魅力を発信する

自然と触れ合う機会が少ない  
→自然と関わるイベントを開催する

順位	都道府県名	魅力度(点)
23年(22年)		23年(22年)
32(29)	高知県	20.9(22.5)

## 3 プラン概要

**THEMA**  
高知県の自然の魅力を伝えて高知県のことを好きになってもらう!

**対象者**  
県内の家族連れ

**内容**

- 高知県のイベントを開催している企業の方へお願いしてイベントの手伝いをしてもらう
- そのイベントの中で高知商業として高知県についてのクイズ大会を開催
- 参加してくれた方に高知県の魅力を知ってもらう

**ターゲット**  
- 県内の家族連れ -

- 子どもを自然に触れさせたい
- 日本自然保護協会促進
- 家族でイベントに参加したい 9割
- CHEERS株式会社アンケートより

## 5 新規性独自性

これまで、高知のことを盛り上げていけないイベントを開発する人が多かったが、そこに自分達高校生が参加し高知をアピールできるという新規性がある。これまでは、高知の良いところを活用した物を作ったイベントを開催し、間接的に魅力を伝えることが多く、自分達は、直接そのイベントに来てくれたお客さんに対して高知の魅力をPRすることができるという独自性もある

## 6 PR方法

- ポップの作成
- Instagramで発信
- リールやストーリーなど

## 7 効果

- 高知県の自然について知ってもらう
- 高知のことを好きになってもらえる
- 高知県の魅力度ランキングが上がる
- PR力が高まる

# 【お遍路】復活！大名行列

## ①現状分析

**お遍路さん減退**

2014年～5000人減少中→外国人お遍路増加中  
現在:年間約150,000～200,000人がお遍路している

**課題**

- 宿泊施設の情報日本語で外国語ガイドがない
- お遍路施設不足

## ③プラン概要

今ある宿泊施設にお遍路さん向け、そこで利益の3%を外国人お遍路さんが訪れた際、接待する人が外国語を話せない場合に外国語ガイド付きのパンフレット作成の費用に回し、泊めること増やせるという仕組み。また、お遍路さんが増えればお遍路さん向けにパンフレットにクーポンをつける

## ④実現計画案

今ある宿泊施設にお遍路さん向け、そこで利益の3%を設備が整っていないお遍路施設や外国語ガイド付きのパンフレット作成の費用に回し、利用するお遍路施設を増やし、グローバル化に対応しているお遍路施設にパンフレットを合わせて合計100人に届けてもらう

## ②課題の整理

**課題①**  
宿泊施設の情報日本語で外国語ガイドがない外国人が宿泊施設に泊まらない

**課題②**  
外国語ガイド付きの宿泊パンフレットをつくり、外国人お遍路を助ける。

お遍路施設不足

→現在ある宿泊施設にお遍路さんを呼び込み募集させる。

## ⑤新規性・独自性

高校生が初めて電子パンフレットの作成を試みる。外国語ガイドや音声搭載。

## ⑥PR方法

- SNS
- 高知駅にパンフレットを設置する

## ⑦効果

外国人お遍路さんが増え、「お遍路」の認知度が上がる

## シーボーンアート WITH 本間さん

～KOCHI SEA FOREVER～



### 高知の海の分析

高知県  
→増加する年平均は約、赤潮発生  
県内に使用可能な漁業資源を豊富に保有しているが、資源が減少している

近年、この高知県産物やそのお遍路場による経済効果は約1億1千万円

**赤潮**

- 発生回数増加
- 発生期間延長
- 発生回数1年につき約10回
- 発生期間が約1週間
- 発生回数が増えれば発生期間も長くなる

**漁業**

- 漁業資源の減少
- 漁業資源の減少
- 漁業資源の減少
- 漁業資源の減少
- 漁業資源の減少

**お遍路**

- お遍路場が増える
- お遍路場が増える
- お遍路場が増える
- お遍路場が増える
- お遍路場が増える

## 2. 課題の整理

**課題の整理**

課題① 宿泊施設の情報日本語で外国語ガイドがない外国人が宿泊施設に泊まらない

課題② 外国語ガイド付きの宿泊パンフレットをつくり、外国人お遍路を助ける。

お遍路施設不足

→現在ある宿泊施設にお遍路さんを呼び込み募集させる。

## ターゲット

対象者 夏休みの子どもたち(園遊会や日記の題材にも使える)  
県内や県外、国内外の高知の海を知らない観光客

ファミリー  
よみ解きやすい  
イベントを開催する場所をよく利用している人  
ボランティアをしてくれる人  
高知の海を綺麗にしたいと思う人

## ソーシャルニーズ

高知の経済に支えられている。観光に来てくれる観光客のために海を綺麗にする必要がある。そのためにはゴミを捨てたり汚れた海で遊ぶのを止めるためにイベントを開催してイベントを行って高知の経済の魅力を県内の人にももちろん、県外の人や海外の人にも知ってもらい高知の経済に支えよう。

### 4. プラン概要

#### テーマ 海洋環境を豊かに

**問題解決**

- 興味持てた魚種をアート作り (シーボーンアート)
- それと同時にゴミも拾ってもらい同時にだけだけ埋れているのが知ってもらえる
- ジェルキャンドル、ゼリーキャンドル
- イベントを増やす (ゴミ拾い大会、手作りイベント、ずっと置いておけるアート)
- 知名度を上げる
- NPO日本海の美術協会の本間さんとコラボ
- ビーボランディア団体とコラボ

### 5 新規制 独自性

**新規制**

- ・高知県では、海苔の収穫やシラスなどを獲ったものづくりの体験が少なく、観光客は海に行っても魚介を安心して口にすることができない。
- ・景色を楽しみつつ、影に写り、持って帰れるものを海でつくれる。
- ・NPOとコラボして、高知がイベントを企画する。
- ・材料を自前調達して、アートを完成させる。

**独自性**

- ・海のものをテーマにしたアートという点に強みを持ち得ることである。
- ・高知の課題をそのアートという点に強みを持ち得ることである。
- ・インテリジェントなアートである。
- ・環境のものをテーマにすることで材料費を抑えられ、手軽に体験することができる。
- ・海洋の工芸などにもできる。
- ・心豊かな人から生まれ得る。

### PR方法

- ・高知商業のホームページにイベントの企画を載せる
  - 商業生だけでなく、保護者の方や学校関係の方にも知ってもらうことができる
- ・NPO法人日本海の会の会員へ本間さんを通して情報提供する
  - 県外からも参加してもらうことができ、老若男女関係なく開催することができる
- ・SNSを活用してInstagram等で宣伝する
  - 若い人たちはよくSNSを見るので効率よく知ってもらうことができる

### 【効果】

- ・海洋汚染の現状を知れる。
  - マイクロプラスチックは海の生物が摂取してしまっで食物連鎖で最終的にその魚を食べた人間の体内でも確認されたりなど大きな問題となっているから、現状がわかればプラスチックフリーな生活を取り入れるきっかけになる。
- ・現場への意識が高まる。
  - 海に流れ着くゴミを実際に見ることができ、海洋汚染の現状を知り、環境問題への関心や意識が高まる。生態系の破壊を防ぐことにもつながっていく。
- ・リフレッシュできる
  - 波の音や潮風、自然の風景を満喫することはそれだけで気持ちいい。リフレッシュ効果とともに、環境への配慮や海をもっと綺麗にするべきという意識が自然に湧いてくる。
- ・SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」の達成につながる
  - SDGsへの関心の高まりとともに、海岸を清掃すること＝海洋ゴミについて考える場としての役割も強まっている。

## CHALLENGE INFOGRAPHIC

小笠原光優、成岡大輔、西本奈優、山下色花、山中揚子

#### 現状分析

全国生産率 1位：ししとう、生薑、なす 3位：ピーマン  
子どもが嫌いな野菜ランキング 1位：なす 2位：ピーマン  
高知ならではの料理、食材を食べたことあるか  
「ある」小学5年生～高校生：78.9%

**高知県の特産物、郷土料理を知らないのはもったいない！**  
まずは地元を知ってもらい、この先広めてもらいたい

全国生産トップの野菜が沢山ある

子どもの野菜嫌い

郷土料理の知名度が低い

#### 課題の整理

**課題 県内の子どもが高知県の全国で生産トップである食材が郷土料理を知られていない**

問題① 【高知県の全国生産トップの野菜を好きじゃない子供が多い】

- ▶ 子供食堂などで食べてもらう機会を増やす
- ▶ 【高知の食材、料理を知らない子供がいる】
- ▶ 子供食堂で出す夕食を作る

**根拠となるデータ 1**

ししとう、生薑、なす 全国生産No.1  
ピーマン 全国生産No.3

**根拠となるデータ 2**

高知ならではの料理、食を食べた事がある

小学5～6年生	73.2%
中学生	68.7%
高校生	78.9%

各世代で、2割以上は知らないと回答した。

#### 新規性・独自性

**子供食堂** 子供×高知の特産物

- ・学生ボランティア 簡単な野菜を収穫してもらって学校にも高知の特産物 色々な野菜を食べてもらうことを知ってもらう
- ・郷土料理を食べてもらおう

#### 課題の整理

JR四国の利用者数が少ない▶特に子供連れが少ない

なぜ? 子育て世代の方の肩身が狭くて乗りづらい▶ベビーカーの置き場など～どうすれば～

子育て応援スペースの設置▶壁やドアにイラストを貼る

自分たちで考えた工夫を行い子ども連れの利用者さんを増やす▶サンブラザさんや飲食店と協力して地域の食材を使った商品販売を作る

#### PR方法

- ①小学校～高校にわたしたちの活動を詳しくまとめたチラシを配布
- ②実際に私たちが小学校～高校に訪問し活動内容を伝えに行く
- ③InstagramやTikTokなどのSNSを活用して動画を制作したり、場所や日時、活動内容をまとめて投稿していく
- ④地域の掲示板に活動内容をまとめたチラシを貼る
- ⑤高知商業のホームページにお知らせを載せる

#### 効果

- ・ポスターを貼る (学校の階段、掲示板)
- ・学校のホームページに記載
- ・SNS (インスタ、Twitter等)
  - ・多言語 (海外の人にもってもらえるように)

子ども連れの人も気軽に乗ってもらうようにする。

子ども連れの利用率が増えることでJR四国の利益が増える。

#### プランの概要

**子ども食堂で高知の食材、郷土料理を提供**  
身近にある子ども食堂で提供することで、気軽に高知に触れることができる。

**学生ボランティアと一緒に調理する**  
高知の食をより深く知ってもらう家でも作れるようになってもらう

②フードロス削減し、地産の生鮮野菜を応援する。

高知の子ども食堂では、「行先がない」「価値がなかった」食材を活用しています。

#### ソーシャルニュース・ターゲット

**ニーズ**

価値がつかないなどの理由で野菜を廃棄している高知県の農家さん

**ターゲット**

高知県の小学生～高校生とその保護者  
特に、野菜嫌いや郷土料理を知らない人

**効果**

- ・県内で生産されている野菜や有名な郷土料理の認知度を高めることができる
- ・子供たちの野菜嫌いを克服
- ・一緒に調理をしながら野菜や郷土料理について触れることでより深く高知の県のことを知ってもらえる
- ・子供たちと一緒に私たちが高知について学べる
- ・高知県のフードロスを削減することができる

## 企画書

#### 現状分析

高知県＝単社会、鉄道赤字が続いている  
高知の公共交通機関を利用子ども連れが少ない。→本数が少ない、交通機関に乗って行くことができる範囲が狭い

#### プラン概要

**プラン1**  
子育て応援スペースをつくる。  
JR内の一部に椅子がない場所をつくり、フリースペースを作る。ベビーカーを置けたり、子供連れの人がゆっくりできる。子ども連れの人が交通機関を利用しやすい環境を作る。

**プラン2**  
既存しているJRさんの時代の夜明けのものがたりというイベントを参考に子ども連れの人が汽車の中で景色を楽しむのももちろん、塗り絵などの遊びをしたり、アンパンマンのお子様ランチなどを食べて楽しむイベントを行う。ご飯は機会があれば自分たちで商品開発したものを使用したい。

#### ソーシャルニュース・ターゲット

小さい子ども連れの方  
県外観光客  
外国人の子連れの方

#### 新規制・独自性

高知で高校生が小さいお子さんをターゲットに公共交通機関に関するイベント (企画) を行うのは初めて

#### 課題の整理

JR四国の利用者数が少ない▶特に子供連れが少ない

なぜ? 子育て世代の方の肩身が狭くて乗りづらい▶ベビーカーの置き場など～どうすれば～

子育て応援スペースの設置▶壁やドアにイラストを貼る

自分たちで考えた工夫を行い子ども連れの利用者さんを増やす▶サンブラザさんや飲食店と協力して地域の食材を使った商品販売を作る

#### PR方法

- ・ポスターを貼る (学校の階段、掲示板)
- ・学校のホームページに記載
- ・SNS (インスタ、Twitter等)
  - ・多言語 (海外の人にもってもらえるように)

#### 効果

- ・子ども連れの人も気軽に乗ってもらうようにする。
- ・子ども連れの利用率が増えることでJR四国の利益が増える。

(3) 情報マネジメント科3年生・情報マネジメント科 ICT 活用類型2年生

1) 活動主体

高知商業高等学校 情報マネジメント科 3年生 34名  
// 2年生 18名

2) 実施授業

3年生：課題研究・ビジネス情報管理

2年生：ネットワーク活用

3) 授業の目的・ねらい

【課題発見解決力・ICT活用力・自ら考え行動できる力】の育成

3年生：科での学びを活かし、地元へ貢献できること

(デジタル技術を活用して高知へ貢献活動)

2年生：プロが追及するデザイン・販売活動を学ぶ

(他者が興味を示すデザイン・情報発信の学習)

4) 外部講師(敬称略)

講師氏名(所属)	主な講義内容
山崎 美和 (CHALAZA BRANDING)	・ブランディングデザインについて →ブランドのコンセプトやメッセージを 視覚的な情報として伝える方法
設楽 紗英子 (株式会社 三越伊勢丹 新宿ライフデザイン商品部)	・SNS (Instagram) について →写真撮影・投稿頻度・時間帯・コメント などの効果的な方法
吉川 淳二 橋爪 淑子 (株式会社 KICCA)	・ビーチサンダルデザイン ・接客マナー・販売について
森 和美 (高知大学次世代地域創造センター)	・VR ゴーグル・ソフトについて (ソフトウェアへの対応)

5) 教科横断的な授業

【3年生】

教科名	授業内容
家庭科	衣食住による「食」の大切さ

【2年生】

教科名	授業内容
英語科	接客時およびイベント司会における接客時の対応(会話)

## 6) 実施実績

## 令和5年【3年生】

月日(曜日)	授業・会議	内容
4月14日(金)	授業	生徒テーマだし
5月16日(火)	授業	SNS(Instagram)を活用した情報発信の仕方
5月26日(金)	授業	ブランディングデザインについての講座
7月3日(月)	課外授業	塚ノ原保育園 夏祭り打合せ①
7月5日(水)	授業	各グループ中間報告①
7月8日(土)	課外授業	秦ふれあいセンター合同研修会①
7月14日(金)	課外授業	塚ノ原保育園 夏祭り打合せ② (プロジェクションマッピング試写)
7月18日(火)	課外授業	大豊町穴内地区イベント合同研修会 (県庁＝中山間振興・交通部・中山間地域対策課)
8月3日(木)	課外授業	高知県社会福祉協議会 子ども食堂に関する講座 (高知市ふくし交流プラザ)
9月1日(金)	課外授業	塚ノ原保育園 夏祭り参加 (プロジェクションマッピング実施)
9月20日(水)	課外授業	VR ゴーグル・ソフトについて(高知大学)
10月20日(水)	授業	各グループ中間報告②
10月21日(土)	課外授業	秦ふれあいセンター 子ども食堂ボランティア参加①
11月18日(土)	課外授業	秦ふれあいセンター 子ども食堂ボランティア参加②
11月25日(土)	課外授業	秦ふれあいセンター合同研修会②
12月8日(金)	授業	各グループ中間報告③
12月16日(土)	課外授業	大豊町穴内地区集落活動センター打合せ① 秦ふれあいセンターにて子ども食堂支援実施
12月19日(火)	課外授業	高知市立西部中学校にて ICT 出前講座実施

## 令和6年【3年生】

月日(曜日)	授業・会議	内容
1月9日(火)	課外授業	大豊町穴内地区集落活動センター打合せ② プロジェクションマッピング仮投影①
1月11日(木)	課外授業	大豊町穴内地区集落活動センター打合せ③ プロジェクションマッピング仮投影②
1月19日(金)	課外授業	高知市立泉野小学校にて ICT 出前講座実施
1月25日(木)	授業	各グループ成果報告および中間報告④

1月27日(土)	課外授業	大豊町穴内地区集落活動センターイベント実施 プロジェクションマッピング実施
1月28日(日)	課外授業	大豊町穴内地区に関するアンケート活動実施 (高知駅南口 旅広場)
1月30日(火)	授業	振り返りレポート提出
2月13日(火)	課外授業	課題研究発表会及び市商地域創造プログラム報告会(成果報告)
2月15日(木)	課外授業	いの町立伊野中学校にて ICT 出前講座実施

#### 令和5年【2年生】

月日(曜日)	授業・会議	内容
4月18日(火)	授業	ビーチサンダルデザイン公募開始
4月21日(金)	授業	ビーチサンダルデザイン テーマ・レイアウト開始
5月19日(金)	授業	ビーチサンダルデザイン制作(PhotoShop活用)
5月26日(金)	授業	ブランディングデザインについての講座
6月6日(火)	授業	先方へ各生徒の制作物プレゼンテーション実施 ビーチサンダルデザイン講評および結果発表
6月9日(金)	授業	ノベルティのテーマ出し
6月13日(火)	授業	ノベルティ制作開始 ビーチサンダルデザイン加工開始
6月20日(火)	授業	SNS(Instagram)を活用した情報発信の仕方講座
6月27日(火)	授業	接客マナー講習・販売当日のOJT
7月7日(金)	課外授業	高知蔦屋書店にて販売活動準備 接客マナー研修
7月8日(土)	課外授業	高知蔦屋書店にて販売活動実施(1日目)
7月9日(日)	課外授業	高知蔦屋書店にて販売活動実施(2日目)
7月11日(火)	授業	生徒振り返り

#### 7) 生徒の感想等

##### 【3年生】

##### 《ICT 出前講座》

- ・ 私が卒業しても、これから学校教育の場で探究学習や課題研究のような時間が増えていき、生徒達自身が主体となって、学校の域を超えて活動していくことが求められているのだろうなと思いました。先生1人が教壇に立つ受動的な授業ではなく、自ら動くことばかりだったのでとても楽しかったし、探究心だけではなく協調性も必要で、身に付くことも多かったです。
- ・ 自分が普段体験できないことをやらせてもらったり、挑戦してみたりで今後の自分の能力向上にも役立つことができ、とても良い経験になる授業だと思いました。



また、自分が成し遂げたことが他の人に評価される時はとてもうれしく達成感がありました。

- ・ 最初は、目標があやふやでどのような活動をするべきか分からなかったけど、職員と活動していく中で ICT を普及したいと明確な目標が出来ました。最初は不安でも行動することが大切だと学びました。

#### 《大豊町穴内地区 プロジェクション・マッピング》

- ・ 自分の力不足や考えの幅の狭さ、経験のなさや不器用さが痛いほど辛かった。自分の嫌なところが見えてくる反面、他人の嫌なところや協力をしてくれないところが未熟な自分にはどうしていいかわからなかった。いろんな伝え方をしてみたけど未だ改善出来た気はしない。そんなことでストレスとを感じるのも嫌だと思うのに、体調面がすぐれないことの方が多かった。これから大人になった時、この辛かった経験が活かせるように、早くからこういった考え方を育てる機会があってよかったと思います。
- ・ 大変なことは多かったけどやりがいはあったし、協力し合って課題解決に進んでいく時は楽しかった。将来の自分に必ずつながっていく良い授業だと思った。自分たちで一から企画を考えて試行錯誤を繰り返して実践するという経験が出来て良かった。もっと積極的に動けたら良かったなと思った。また、自分の役割より別の人から振られた役割を優先してしまった。そこのところはもっと直したいなと思った。
- ・ イベント開催までいろんな困難があったけど仲間と解決する力がついたり、自分で行動する力もついたりした。授業外での活動で快く協力してくれる人がいて活動がしやすかった。

#### 《秦地区こども食堂支援活動》

- ・ 初めて自分たちで一から考えて活動することをしたが、企画計画がどれくらい大変なのかを感じることが出来た。また、他の全く関係のない人たちに無理を言っただけでこども食堂を行ったため、先方との関わり方とかも学べた。予算の問題で詰んだりしてみんなで悩みまくったが、最終的に成功できて良かった。

#### 【2年生】

- ・ ビーチサンダルの授業を通して、お客様に喜んでもらうにはどうすれば良いかということを第一に考えながら、ノベルティの材料やラッピングなどを考え、たくさん意見を出すことが出来ました。また、計画を細かく決めることが出来るようになったり、お客様と交流することでコミュニケーション力の向上もできたりしました。
- ・ ただ丁寧に接客するだけでなく、お客様に寄り添った接客をし「何を求めているのか」を感じながら対応することが大切だと学んだ。
- ・ 講義の内容を聞けば聞くほど大変さと大切さを知っていき、自分に足りなかったことを取り組んでみたら、改めて気づいた（お客様と接した際に戸惑ってしまった）

- ・ 自分が好きだから描くのではなく、「買い手が買いたいと思えるデザイン」をすることが大切だと学んだ。SNSに投稿するときに、毎回違う印象を与えてしまうデザインにせず「統一させる」ことの重要性を知った。
- ・ 接客をする自分が楽しいことに気が付いた。たくさんの方と関わってマナーが身についた。ファーストコンタクトで印象が決まる。

## 8) 授業担当者感想等

### 【3年生】

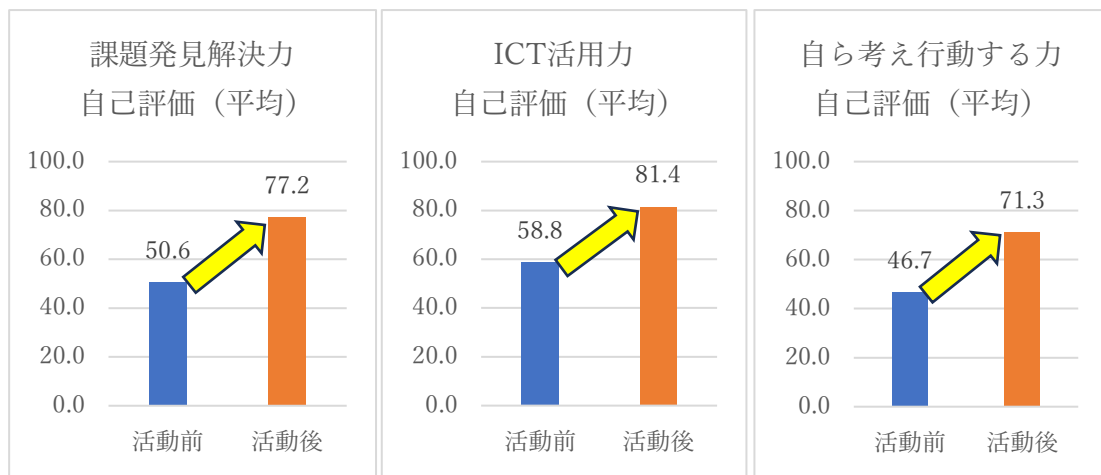
生徒の活動をファシリテートすることは本当に難しい。私たち教員にその力がないと、生徒の活動もうまく回らない。今回も「なぜ?」「どのように?」「何を?」「誰を?」と生徒と討論を繰り返しながら、生徒の思考をより深められるよう努力したが、力不足であったことは否めない。しかしながら、活動後の生徒の感想から、多少なりとも大切なことが伝わっていたことが見られたため、一定の成果はあったと感じている。今年度の課題を改善点とし、次年度への活動につなげていきたい。

### 【2年生】

機材トラブルにより「1ヵ月半」もの期間、パソコンを使用することができず、タブレットのみの作業となったことが1番の反省点である。

販売イベント開催日からの日程を逆算するとタイトなスケジュールとなっている。1年次の3学期中盤より使用するソフトウェアの学習を行い、4月当初から各グループで活動が開始できるように計画を見直す。

## 9) 生徒の変容【3年生】



各グループでのプロジェクトにあたり、本校が掲げているスキル2点「課題発見解決力」・「ICT活用力」と情報マネジメント科独自で設定した「自ら考え行動する力」を活動前、活動後に分けてアンケートを実施し、上記にグラフ化したものを記載した。生徒の振り返りにもあるように「生徒自身が主体」となり、学校外にて活動を実施することは、日頃の学習活動とは違い「受動的から能動的」な姿へ変化していった。また、自らの探究心をより高めながらも「他者の意見」に耳を傾け、「協調性」を養うことが出来た。各グループの活動は「社

会の現状」を知り、その現状へグループで課題設定し、提案した内容を担当教員へプレゼンテーションを行った。内容が乏しいものには質疑を繰り返し、その度にブラッシュアップするなど「仲間で課題解決」を図りながら「コミュニケーション力」も少しずつ身に付いていた。

### 【2年生】

ビーチサンダルへレーザ加工するデザインを各自が作成した。PhotoShopを活用し、自らが発案するデザインを創作。あくまでも「自己主観のデザイン」である。その制作物に対し、株式会社 KICCA 様へ各個人がプレゼンテーションを行い、一定の評価をいただいたことは生徒自身にとっても今後の作品制作に向けて励みになったようだ。一方で各カテゴリーの専門家（講師）からオンラインではあるが、ビーチサンダルの販売イベントを行う「情報を発信」するには「他者主観」が必要であると講義で指導していただいたからは、明らかに自分本位ではなく「どのようにすれば自分たちの投稿（SNS）を多くの人に見てもらえるか」などグループ内で様々な意見を出し合うことが出来た。また、日頃は大人しい生徒が広報担当者として新聞記者やテレビ局からの取材対応、店頭に来てくださったお客様への対応など「コミュニケーション力」が一段と上がったのが見てとれた。

### 10) 授業風景（画像）

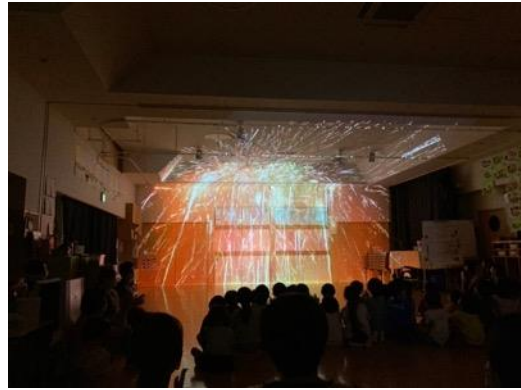
《秦地区 子ども食堂》



《ICT 出前講座：高知市立西部中学校》



《プロジェクションマッピング：塚ノ原保育園》



《高知駅南口 旅広場アンケート（大豊町穴内地区に関する）》



《大豊町穴内地区プロジェクションマッピング》



《大豊町穴内地区プロジェクションマッピング（試写）》



《ICT 出前講座：高知市立泉野小学校》



《文化祭【VR 体験】（生徒実施）》



《ブランディングデザイン講座》



《接客マナー講座》



《SNS 講座》



《ビーチサンダルデザイン 先方へのプレゼンテーション》



11) 成果物

① 《3年生：グループA = 大豊町穴内地区イベント企画・調査（生徒作成）》

調査発表資料（生徒作成）

地域配布用チラシ（生徒作成）

研究対象地域：大豊町穴内地区

ゆとりすとパークおおとよ ジビエフェスタ（2019年開催）

光のイベントが実施しやすそう

2-1. 発地別立寄市町村割合

(表 2-1)発地別立寄市町村割合(特) [発地ブロック別]

発地	立寄市町村	割合	備考
大豊町	大豊町	81	81
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	26	26
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	174	174
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	76	76
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	443	443
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	18	18
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1
高知市	高知市	839	839
	高知市	1	1
	高知市	1	1
	高知市	1	1

大豊町の県別の観光客の立寄市町村割合が、高知県の中で下から二番目

令和3年 県外観光客入込・動員調査報告書から引用

光のイベントが実施しやすそう

あなないに光を

スケジュール  
15:00～ 販売開始  
17:00～ 投影開始  
～19:00 投影終了

入場料無料

2024 1月27日(土)  
15:00～19:00

場所  
集落活動センターあなない(直販所)  
※お申し込みはあなないのホームページから

永剛食堂Shanti

グローバルバウム  
高知市 X 高知市

高知商業ジビエ部

雨天時中止  
無料駐車場(20台～30台)

共催  
集落活動センターあなない

お問い合わせ  
集落活動センターあなない  
090-9772-3488

\* 知商業 \* 高等学校管理マネジメント科

② 《3年生：グループA = 大豊町穴内地区紹介パンフレット表・裏（生徒作成）》



《3年生：グループB= ICT 出前講座【VR・ドローン】概要（生徒作成）》

### ここ淵の観光VR化について

**・ここ淵**  
アクセスがしにくい場所にあるので、高齢者や足の不自由な人は見ることができない  
→VR内でここ淵の景観を再現し、そのような方にもここ淵の景観を楽しんでほしい  
UNREAL ENGINEで再現しVRでここ淵を見て回れるように制作

**実物写真**

**再現制作写真**

**制作風景**

**評価ポイント**

- インターネットの画像やGoogleアースを使って周辺の景色などを再現
- 一面の形やココの感じを再現することができた
- クリティシーは素人ながら上手にできた
- 滝の右下にあるくぼみまで再現できた
- よりリアルな出来栄に

**反省点**

- VRを再現するときに使う木や石などの素材が多く、動作が重くなってしまった
- 一部に体験授業でも重くて処理が遅い付かない状況があった
- そして、ここ淵のVR再現はリアルな再現に近づいた
- VRゴーグルを着けてもあまりリアルな感じなかった

**改善点**

- 事前に学校でディスプレイを授業で行い対策を立てるようになる
- 明るさ調整機能を確認し、作成している対象と実際の対象のデザインの色を何度も比較する
- 実際にここ淵に行き、写真や動画をゲーム内で実寸大の大きさで再現する
- より没入感のある情景が再現できる

### 体験授業について

**スライド内容**  
情マネの紹介（中学生のみ）  
・VRについて  
・ドローンについて  
・プログラミングクイズ

**講義の様子**

**中学校**  
クイズの際は中学生が2つのグループに分かれて積極的に話し合う姿が見られた。  
また、体験では周りを見渡してみたり、体を前後左右に動かしてより運動感がある動きをして自分なりの楽しみ方ができた。

**小学校**  
毎回のプログラミングのクイズは盛り上がり、小学生自ら手を挙げたり一人が代表して答を立てるなど積極的な姿が見受けられた。解説動画で納得する声が多く聞かれた。さらに、意外とVRの認知度はOMなどで知っている生徒が多く驚いた。  
短期間の体験となったが小学生のVR体験度は満足の結果となった。

**VR(バーチャルリアリティ)**  
仮想世界を現実世界のように体験できる技術

**VRゴーグルを使う**

**【ここ淵】のVR化**

【問題】  
道案内のパスから徒歩でここ淵へ行くのに必要な時間は何分か？

お宝屋敷や谷の町お宝屋敷人が観光するのに便利！

**ここ淵の景色をVRで再現！**

**航空種な飛行機やヘリコプターの仲間**

人が飛んで動かし

人が飛ぶなくても飛べる

《3年生：グループC = 秦地区子ども食堂支援活動》

企画概要（生徒作成）

地域配布用チラシ（生徒作成）

企画の概要	
内容	<p><b>実施日時</b> 12月16日(土) 10:00~12:00</p> <p><b>実施会場</b> 秦ふれあいセンター</p> <p><b>人数</b> 12人 (高知商業高等学校3年7ホーム)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の子ども食堂との合同開催にて、クリスマスイベントの実施(食事前2時間)</li> <li>アンケートの実施(その場で調査・回収)</li> </ul>	

